

# Netfinity システム管理 PCI アダプター

情報

SA88-6892-00  
(英文原典 : 00N9115)





# Netfinity システム管理 PCI アダプター 情報

SA88-6892-00  
(英文原典 : 00N9115)

お願い

本書に記載されている情報および製品（またはプロダクト）をお使いになる際は、その前に必ずこのサーバー・ライブラリーの“特記事項および安全情報”の項の一般情報をお読みください。

## 第 1 版 (1999 年 8 月)

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミング、およびサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、IBMがこのようなIBM製品、プログラミング、およびサービスを、必ずしも日本で発表する意図であることを示すものではありません。

本マニュアルについてご意見やご感想がありましたら

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.infocr.co.jp/ifc/books/>

をご覧ください。（URL は、変更になる場合があります）

原 典： 00N9115  
Netfinity Advanced System Management PCI Adapter  
Information  
発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社  
担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 1999.9

©Copyright International Business Machines Corporation 1999. All rights reserved.

Translation: ©Copyright IBM Japan 1999

# 目次

第1章 はじめに	1
必須のデバイス・ドライバー	1
デバイス・ドライバー導入の説明	2
第2章 Netfinity システム管理 PCI アダプターの紹介	5
ネットワーク・ゲートウェイとしてのシステム管理 PCI アダプターの使用	6
システム管理の始動	7
シリアル、TCP/IP、または ASM インターコネクト接続を使用したりリモート管理	8
構成情報	9
構成の設定	10
モデム設定	15
ネットワーク設定	20
リモート・アラート設定	21
SNMP 設定	25
イベント・ログ	27
稼動パラメーター	28
システム電源制御	29
リモート POST コンソール	30
Netfinity システム管理 PCI アダプター・マイクロコードの更新	31
第3章 Netfinity マネージャーをもたないシステム管理ハードウェアの構成	33
Alert Settings (アラートの設定)	34
Dial In/Out Settings (ダイヤルイン/アウトの設定)	34
General Settings (一般の設定)	35
Modem Settings (モデムの設定)	36
Network Settings (ネットワークの設定)	36
SNMP Settings (SNMP の設定)	36
第4章 Netfinity マネージャーをもたないシステム管理 PCI アダプターの使用	39
Netfinity システム管理 PCI アダプターへの直接接続の確立	39
Netfinity システム管理 PCI アダプターのメニュー	40
「System Power (システム電源)」メニューの選択項目	41
「Boot (ブート)」メニューの選択項目	42
リモート・ビデオ・モードを使用して POST のモニターとアクセス	44
付録A. ダイナミック接続マネージャー	47
モデムの構成	48
リモート・アクセスの使用可能化	50
ダイナミック接続マネージャー・エントリーの作成	51
リモート・システムへのアクセス (シリアル・リンクと TCP/IP リンク)	54
リモート・システムへのアクセス (システム管理インターコネクト・リンク)	55
初期設定ストリングの指針	56
付録B. システム管理インターコネクト・ネットワークのセットアップと使用	59
システム管理インターコネクト・アラート送信	60

システム管理インターコネクト構成の例 .....	61
付録C. Netfinity サーバー・フロント・パネル・アラート・コード .....	65
付録D. 索引 .....	67

## 第1章 はじめに

この項には、IBM® Advanced System Management for Netfinity® Manager™ (Netfinity マネージャー用 IBM システム管理) の導入、始動、および使用についての説明が記載されています。これらの説明には、構成ユーティリティの導入方法および Netfinity システム管理 PCI アダプターが必要とするデバイス・ドライバの導入方法の詳細が含まれています。この項は、Netfinity マネージャーまたは Client Services for Netfinity Manager (Netfinity マネージャー用クライアント・サービス) と一緒にシステム管理を導入し使用する方を対象に書かれています。

また、この項には Netfinity システム管理 PCI アダプターを Netfinity マネージャーなしで使用する場合の説明も記載されています。

### 重要!

- システム管理サービスは、Netfinity マネージャーと一緒に導入すれば、Netfinity システム管理 PCI アダプターを使用して得られるもっとも広範囲の機能を提供します。Netfinity マネージャーはこのサーバーに含まれています。Netfinity マネージャーを導入しない場合には、Netfinity システム管理 PCI アダプターの高度な機能の多くを使用することはできません。Netfinity マネージャーの導入方法については、このサーバー・ライブラリーの“ServerGuide と Netfinity マネージャー”の項を参照してください。
- サーバー・ライブラリーの項では、Netfinity システム管理 PCI アダプターと一緒にシステム管理サービスを使用する方法を説明します。このアダプターはご使用の Netfinity サーバーに含まれています。また、このサービスを使用して以下のハードウェアを含む、他のシステム管理ハードウェアを管理することもできます。
  - PC Server システム管理アダプター・オプション
  - Netfinity システム管理プロセッサ (Netfinity 5000、Netfinity 5500、および Netfinity 5500 M10 に統合されている)

システム管理サービスとともに使用できるフィーチャーは、管理対象のシステム管理ハードウェアによって異なります。Netfinity システム管理 PCI アダプター以外のシステム管理ハードウェアと一緒にシステム管理サービスを使用する場合の詳細については、使用されるハードウェアに含まれている資料またはサーバーに含まれているサーバー・ライブラリーを参照してください。

## 必須のデバイス・ドライバー

次のデバイス・ドライバーが必要となります。

- OS/2 オペレーティング・システムの場合: IBMSPO.DLL および IBMSPO.SYS
- Microsoft Windows NT オペレーティング・システムの場合: IBMSPW.DLL および IBMSPW.SYS
- Novell NetWare オペレーティング・システムの場合: IBMSPN.NLM

## デバイス・ドライバー導入の説明

Netfinity システム管理 PCI アダプターが正しく機能するのに必要なデバイス・ドライバーは、次のいずれかの方法で導入できます。

- ServerGuide Netfinity アプリケーション CD を使用する (OS/2 および Windows NT のみ)。

ServerGuide Netfinity アプリケーション CD を使用してデバイス・ドライバーを導入するには、この CD に付属の説明に従ってください。

- ServerGuide ディスケット・ファクトリー CD を使用してデバイス・ドライバーを導入するのに必要となるディスクを作成する (OS/2、Windows NT、NetWare、または UNIXWare)。

*Netfinity Advanced System Management Device Driver Diskette* を作成する必要があります。

注: このディスクには、Netfinity システム管理 PCI アダプター・ハードウェアを含んでいる Netfinity サーバーでサポートされているすべてのオペレーティング・システムについてのデバイス・ドライバーの情報が入っています。

これらのディスクを作成するには、ServerGuide ディスケット・ファクトリー CD で提供されている説明に従ってください。

OS/2 または Windows NT を導入している場合には、ServerGuide Netfinity アプリケーション CD を使用してデバイス・ドライバーを導入できます。デバイス・ドライバーの導入を完了するために指定の追加のステップを実行する必要はありません。

注: NetWare または UnixWare を導入している場合には、ServerGuide ディスケット・ファクトリー CD を使用して作成したデバイス・ドライバーを使用する必要があります。

ディスク・ファクトリーを使用してディスクを作成し、手操作でデバイス・ドライバー導入することを選択する場合には、次の説明に従ってデバイス・ドライバーの導入を完了してください。

1. *Netfinity Advanced System Management Device Driver Diskette* というラベルの付いたディスクを基本ディスク・ドライブに挿入する。

注: 詳細については、ディスクの README ファイルを見てください。

2. オペレーティング・システム固有のウィンドウまたは全画面をオープンする。
3. 次のコマンドを入力して、次に、**Enter** を押す。

- OS/2 オペレーティング・システムの場合: a:%os2%setup
- Microsoft Windows NT オペレーティング・システムの場合: a:%nt%setup
- Novell NetWare オペレーティング・システムの場合: load a:%netware%setup

4. デバイス・ドライバー (ファイル) が入れられる位置 (パスとディレクトリー) を示し、このファイルを違う位置に入れたいかどうかを尋ねるプロンプトが出ます。

- 示されたディレクトリーにファイルを入れたい場合には、Enter を押します。
- 異なるディレクトリーにファイルを入れたい場合には、希望するディレクトリー名をタイプして、次に Enter を押します。必ず有効なディレクトリー名を使用し、プロンプトが表示されたら全パスを含めてください。



5. 使用しているオペレーティング・システムに必要なデバイス・ドライバー（ファイル）をハード・ディスク上の、ステップ 4 で選択したディレクトリーにコピーします。
  - OS/2 オペレーティング・システムの場合、CONFIG.SYS ファイルが更新されます。
  - Microsoft Windows NT オペレーティング・システムの場合、レジストリーは更新され、すべてのデバイス・ドライバーが自動的にロードされます。デバイス・ドライバーは、即座に実行されます。
  - Novell NetWare オペレーティング・システムの場合、AUTOEXEC.NCF ファイルが更新されます。
6. ディスケットをディスク・ドライブから取り除きます。
7. Microsoft Windows NT オペレーティング・システムの場合には、デバイス・ドライバーの導入プロシージャーは完了しています。
8. OS/2 オペレーティング・システムまたは Novell NetWare オペレーティング・システムの場合:
  - a. ご使用のオペレーティング・システムの遮断プロシージャーを実行してください。説明については、オペレーティング・システムの資料を参照してください。
  - b. Ctrl+Alt+Del を押してサーバーを再始動します。デバイス・ドライバーが自動的にロードされます。デバイス・ドライバーは、即座に実行されます。デバイス・ドライバーの導入プロシージャーは完了しています。

注:

1. ご使用のサーバーの最新のデバイス・ドライバーを入手するには、WWW の <http://www.ibm.com/support/> にアクセスしてこれらのファイルをサーバーにダウンロードします。
2. ServerGuide Netfinity アプリケーション CD に入っている、IBM アップデート・コネクタを導入して、ご使用のシステムで自動デバイス・ドライバーと BIOS アップデートを使用可能にできます。アップデート・コネクタを導入するには、このサーバー・ライブラリーの“ServerGuide と Netfinity マネージャー”の項の「アプリケーション・プログラムの導入」の項に記載の説明に従ってください。

注: アップデート・コネクタが提供する更新サポートは、ご使用のサーバー上で稼働しているオペレーティング・システムによって異なります。詳細については、このサーバー・ライブラリーの“ServerGuide と Netfinity マネージャー”の項の「アプリケーション・プログラムの導入」の項を参照してください。



## 第2章 Netfinity システム管理 PCI アダプターの紹介

この章には、ご使用のサーバーに含まれている Netfinity システム管理 PCI アダプターに関する情報が記載されています。また、この章では、Netfinity マネージャー用のシステム管理サービスを使用して、構成、モデム、ネットワーク、および自動ダイヤルアウトの設定値を変更する方法も説明します。

システム管理サービスを用いて、システム管理イベント (POST、ローダー、およびオペレーティング・システムのタイムアウトまたは上限温度、電圧、および損傷のアラートなど) を構成設定することができます。これらのイベントのどれかが発生した場合、システム管理サービスを構成設定して Netfinity アラートを次の 5 つのいずれかの方法で自動的に送信できます。

- モデムを使用して別の Netfinity システムへ
- 標準の数字ページャーへ
- 英数字ページャーへ (日本では、このサービスはありません)
- TCP/IP ネットワーク接続を使用している Netfinity マネージャー・システムへ (Netfinity システム管理 PCI アダプターでシステム管理を使用している場合だけ使用可能)
- SNMP フォーマットの SNMP ベースのシステム管理システムへ (Netfinity システム管理 PCI アダプターでシステム管理を使用している場合だけ使用可能)

このサービスを用いて、システムのもデムを使用してダイヤルアウトして、リモート・システムのシステム管理 PCI アダプターまたはシステム管理プロセッサに直接アクセスおよび制御できます。リモート・システムに Netfinity システム管理 PCI アダプターが導入されていてこのアダプターが TCP/IP ネットワークに接続されている場合には、ダイナミック接続マネージャー・サービス (Netfinity マネージャーおよびシステム管理サービスと一緒に導入されている) を使用して、Netfinity マネージャー・システムから Netfinity システム管理 PCI アダプターとの TCP/IP リンクをオープンできます。最後に、ご使用の Netfinity システム管理 PCI アダプターまたはシステム管理プロセッサがシステム管理 (ASM) インターコネクト・ネットワークに接続されている場合、またはシステム・モデムまたは TCP/IP 接続を使用して接続しているリモートの Netfinity システム管理 PCI アダプター アダプターまたはシステム管理プロセッサが ASM インターコネクト・ネットワークに接続されている場合、この接続を使用して、ASM インターコネクト・ネットワークに接続されている任意の他のシステムのシステム管理 PCI アダプターまたはシステム管理プロセッサにアクセスし管理することができます。詳細については、47ページの付録A、『ダイナミック接続マネージャー』を参照してください。



図 1. システム管理サービス

さらに、システム管理を用いて、システム管理アダプターまたはプロセッサが含まれているリモート・システム上でパワーオン・セルフテスト (POST) 中に生成されたすべてのテキストをリモートでモニターしたり、記録したり、再生することができます。POST 中にリモート・システムをモニターしている間に、キーボードからコマンドを入力でき、入力されたコマンドはリモート・システムに中継されます。

---

## ネットワーク・ゲートウェイとしてのシステム管理 PCI アダプターの使用

システム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方があるシステムでは、アダプターはイーサネットまたはトークンリング・ネットワーク・ゲートウェイとして (または共用モデム資源として) 機能します。この構成では、システム管理プロセッサがすべてのアラート、タイムアウト、および他のシステム管理情報を生成します。このデータは、プロセッサとアダプター間の ASM インターコネクト接続を使用してシステム管理 PCI アダプターに中継されます。次にアダプターは、イーサネットまたはトークンリング・ネットワーク上の他のシステムにこの情報を送信します (または、モデムのシリアル接続を使用してこのデータを送信します)。

システム管理 PCI アダプターとシステム管理プロセッサの両方があるシステムを構成するとき、すべてのシステム管理の設定値 (リモート・アラートの設定値やタイムアウト設定値など) は、システム管理プロセッサに構成設定する必要があります。しかし、TCP/IP を使用してシステム管理 PCI アダプターと通信する前に、アダプターとのシリアル接続または ASM インターコネクト接続をまず確立して、ネットワーク設定値を構成設定しなければなりません。シリアル接続または ASM インターコネクト接続の確立については、47ページの付録A、『ダイナミック接続マネージャー』を参照してください。ネットワーク設定値を構成設定については、20ページの『ネットワーク設定』を参照してください。

## システム管理の始動

システム管理サービスを始動するには、「Netfinity サービス・マネージャー」ウィンドウのシステム管理アイコンをダブルクリックします。次に、「システム管理」ウィンドウで選択可能な選択項目のどれでもダブルクリックすると、必要とする機能または構成情報にアクセスできます。

注: これによって、ローカル・システム上でシステム管理が始動し、ご使用のシステムだけに導入されているシステム管理 PCI アダプターまたはシステム管理プロセッサの構成設定と管理が可能になります。リモート・システムのシステム管理 PCI アダプターまたはシステム管理プロセッサをアクセス、構成設定、および管理するには、ダイナミック接続マネージャーを使用することによってリモート・システムとの接続をまず確立する必要があります。ダイナミック接続マネージャーの使用については、47ページの付録A、『ダイナミック接続マネージャー』を参照してください。

- 構成情報をダブルクリックして、ランダム・アクセス・メモリー (RAM) マイクロコード、読み取り専用メモリー (ROM) マイクロコード、およびデバイス・ドライバー情報を含む、Netfinity システム管理 PCI アダプターについての詳細な情報を表示します。構成情報の詳細については、9ページの『構成情報』を参照してください。
- 構成の設定をダブルクリックして、Netfinity システム管理 PCI アダプターの多くのフィーチャーを構成します。これらのフィーチャーには、システム識別データ、ダイヤルイン・セキュリティー設定値、システム管理プロセッサのクロックが報告する日時、タイムアウト値と遅延値、およびモデム設定値が含まれます。構成設定値については、10ページの『構成の設定』を参照してください。
- リモート・アラート設定をダブルクリックして、システム管理アラート送信機能を構成します。リモート・アラート設定値については、21ページの『リモート・アラート設定』を参照してください。
- イベント・ログをダブルクリックして、Netfinity システム管理 PCI アダプターのイベント・ログの内容を表示します。すべてのリモート・アクセスの試行および発生したダイヤルアウト・イベントについての情報は、イベント・ログに記録されます。イベント・ログについては、27ページの『イベント・ログ』を参照してください。
- 稼動パラメーターをダブルクリックして、Netfinity システム管理 PCI アダプターがモニターした多くのシステム管理コンポーネントの現行の値または状況を表示します。稼動パラメーターについては、28ページの『稼動パラメーター』を参照してください。
- システム電源制御をダブルクリックして、Netfinity システム管理 PCI アダプターにシステムの電源を切ったり、システムを再始動したり、システムの電源を入れるように指示します。システム電源制御については、29ページの『システム電源制御』を参照してください。
- リモート POST コンソールをダブルクリックして、Netfinity システム管理 PCI アダプターのあるリモート・システム上で POST 中に生成したすべてのテキスト出力をリモートでモニター、記録、および再生します。リモート POST の使用については、30ページの『リモート POST コンソール』を参照してください。

オプション プルダウン・メニューでご使用の Netfinity システム管理 PCI アダプターのマイクロコードを更新するには、マイクロコードの更新... を選択し、次に システム管理を選択します。マイクロコードの更新については、31ページの『Netfinity システム管理 PCI アダプター・マイクロコードの更新』を参照してください。

## シリアル、TCP/IP、または ASM インターコネクト接続を使用したリモート管理

ご使用のシステムのもデム、TCP/IP、または ASM インターコネクト・ネットワーク接続を使用して、リモート・システム上でシステム管理 PCI アダプターまたはシステム管理プロセッサにアクセスし管理したい場合には、ダイナミック接続マネージャーを使用して次のことを行います。

- リモート・システムとのシリアル接続を確立する
- リモート・サーバーに導入されている Netfinity システム管理 PCI アダプターとの TCP/IP または ASM インターコネクト・リンクを確立する
- リモート・サーバーに導入されているシステム管理プロセッサとの ASM インターコネクト・リンクを確立する

次に、システム管理サービスを始動してください。また、ダイナミック接続マネージャーを使用して、別のシステムへのヌル・モデム接続を確立することもできます。最後に、ダイナミック接続マネージャーを使用してリモート Netfinity システム管理 PCI アダプターとのシリアルまたは TCP/IP 接続を確立し、次にこの Netfinity システム管理 PCI アダプターを“パススルー”し、ASM インターコネクト・ネットワークを使用してリモート Netfinity システム管理 PCI アダプターに接続されているシステム管理アダプターまたはシステム管理プロセッサにアクセスし管理することができます。ダイナミック接続マネージャーについては、47ページの付録A、『ダイナミック接続マネージャー』を参照してください。

注:

1. ダイナミック接続制御エントリを作成するときには、「Netfinity ダイナミック接続マネージャー」ウィンドウのシステム管理プロセッサ チェック・ボックスを必ずチェックしてください。このチェック・ボックスをチェックしなければ、リモート Netfinity システム管理 PCI アダプターとの接続は失敗します。ヌル・モデム接続と TCP/IP リンク・エントリは、このボックスのチェックを必要としません。
2. ネットワーク接続での TCP/IP リンクは、システム管理とダイナミック接続マネージャーを使用して、ネットワークに接続されている Netfinity システム管理 PCI アダプターに直接アクセスするときだけに使用可能です。
3. ASM インターコネクト接続を使用できるのは、次の場合だけです。
  - システム管理とダイナミック接続マネージャーを使用して、ご使用のシステム (Netfinity 7000 M10 だけ) に導入した Netfinity システム管理 PCI アダプターに直接アクセスする場合。
  - システム管理とダイナミック接続マネージャーを使用して、ユーザーのシステム管理アダプターまたはプロセッサが接続されている同じ ASM インターコネクト・ネットワークに接続されているシステム管理アダプターまたはシステム管理プロセッサにアクセスする場合 または
  - ASM インターコネクト・ネットワーク上の他のシステム管理アダプターまたはプロセッサに接続されているリモート Netfinity システム管理 PCI アダプターとのシリアル接続、ヌル・モデム接続、または TCP/IP リンクを最初に確立している場合。
4. ダイナミック接続マネージャーを使用してシステム管理サービスが使用するダイナミック接続エントリを構成設定する場合、システム管理プロセッサまたはアダプターにアクセスするためのログイン ID とパスワードを入力します。これはリモート・システ

ム上の Netfinity マネージャー・サービスをアクセスするためのユーザー ID とパスワードではありません。

5. ダイナミック接続マネージャー・エントリーを作成して、リモート・システムのシステム管理プロセッサまたはアダプターとのヌル・モデム接続を確立する場合、ポート・ボーレート値 (ダイナミック接続マネージャー・サービスを使用して構成されている) を、ターゲット・システムの ボーレート値 (システム管理サービスを使用して構成されている) に必ず一致するように設定します。ポート・ボーレートとボーレートの値が一致しない場合には、接続は失敗します。
6. モデムを介して接続され、シリアル接続が切断された場合、ダイナミック接続マネージャーはキャリアの消失を検出し、次にウィンドウに **キャリアが検出されません** と表示します。ダイナミック接続マネージャーは、ここでシリアル接続を自動的に再度確立を試みます。
7. Netfinity マネージャー V5.20.5 およびそれ以降でインターコネクト機能を使用するには、「システム管理」サービスを起動後、「オプション」メニューから、「インターコネクト」→「接続」と実行します。ダイナミック接続マネージャーは使用しませんので、ご注意ください。

## 構成情報

「構成情報」ウィンドウ (図2に示す)は、RAM マイクロコード、ROM マイクロコード、およびデバイス・ドライバ情報を含む、Netfinity システム管理 PCI アダプターについての詳細な情報を表示します。



図 2. 「構成情報」ウィンドウ

## 構成の設定

「構成の設定」ウィンドウ(11ページの図3を参照)の入力フィールドを使用して、ご使用の Netfinity システム管理 PCI アダプターの多くのフィーチャーを構成設定します。これらのフィーチャーには、システム識別データ、ダイヤルイン・セキュリティー設定値、システム管理プロセッサのクロックが報告する日時、タイムアウト値と遅延値、モデム設定値、およびネットワーク設定値が含まれます。

「構成の設定」ウィンドウには次のグループまたはフィールドが含まれています。

- システム識別
- ダイヤルイン設定値
- システム管理プロセッサ・クロック
- POST タイムアウト
- ローダー・タイムアウト
- O/S タイムアウト
- 電源オフ遅延

また、このウィンドウには **モデム ボタン**と**ネットワーク ボタン**もあります。モデムをクリックして「**モデム設定**」ウィンドウ(15ページの『**モデム設定**』を参照)をオープンします。ネットワークをクリックして「**ネットワーク設定**」ウィンドウ(20ページの『**ネットワーク設定**』を参照)をオープンします。

注: ネットワーク設定の構成がサポートされているのは、Netfinity システム管理 PCI アダプターについてだけです。システム管理を使用して Netfinity システム管理 PCI アダプターのアクセスまたは管理をしないのであれば、**ネットワーク ボタン**は使用できません。

## システム識別グループ

システム識別グループには、Netfinity システム管理 PCI アダプターが含まれているシステムを識別するのに役立つ 2 つのフィールドがあります。

フィールド	説明
名前	このフィールドを使用してシステムの名前、システム・ユーザーの名前、連絡先の名前を入力します。この情報は、送信された Netfinity アラートおよび英数字ページャーに送信されたメッセージに含まれて、このアラートを生成したシステムの識別に役立たせます。
番号	このフィールドを使用して特定のシリアルまたは識別番号でシステムを指定したり、システムにダイヤルするのに使用する電話番号を記録したり、連絡先の電話番号を指定します。この情報は、送信された Netfinity アラートおよび英数字ページャーに送信されたメッセージに含まれて、このアラートを生成したシステムの識別に役立たせます。





図 3. 「構成設定」ウィンドウ

これらのフィールドに表示された情報を変更するには、次のようにします。

1. 名前または番号フィールドには、記録したいシステム情報をタイプします。
2. 適用をクリックしてこの情報を保管します。

## ダイヤルインの設定グループ

ダイヤルインの設定グループで使用できるフィールドを使用してダイヤルイン・サポートを使用可能または使用不能にしたり、ユーザーが Netfinity システム管理 PCI アダプターにダイヤルインしてアクセスできるようにします。ダイヤルインの設定グループには、次の項目があります。

項目	説明
構成するユーザープロファイル	スピン・ボタンを使用して、構成したいユーザー・プロファイルを選択します。このサービスは、12 個までの別個のプロファイルをサポートします。
ログイン ID	このフィールドには、リモート・ユーザーが使用するログイン ID をタイプします。12 個までのログイン ID を構成設定できます。(このフィールドは大文字と小文字を区別します。) 注: ログイン ID は、リモートで Netfinity システム管理 PCI アダプターにアクセスする場合に必要ありません。
パスワードの設定	リモート・ユーザーが Netfinity システム管理 PCI アダプターにアクセスできるようにするためにはパスワードをログイン ID とともに指定する必要があります。ログイン ID を入力した後、パスワードの設定をクリックして「パスワードの設定」ウィンドウをオープンします。(「パスワードの設定」ウィンドウのフィールドは大文字と小文字を区別します。) 注: このパスワードは、長さが 5-8 文字で、少なくとも 1 桁は数字が含まれる必要があります。
最終ログイン	リモート・ユーザーによって最後にログインが成功した日時を示します。
読み取り専用アクセス	読み取り専用アクセス チェック・ボックスをチェックすると、選択されるプロファイルをもつユーザーは、アクセスが許可されたとき、Netfinity システム管理 PCI アダプターのどの設定値も変更できません。しかし、このユーザーは、パスワード以外のすべての現在の構成設定および設定値を見ることができます。
ダイヤルバック使用可能	ダイヤルバック使用可能チェック・ボックスをチェックすると、Netfinity システム管理 PCI アダプターは、選択されたプロファイルをもつユーザーがログインすると同時に接続を自動的に終了し、続いて 番号フィールドに入力されている電話番号を使用してダイヤルし、リモート・システムとの接続を試みます。

必要に応じて、モデムを選択して「モデム設定」ウィンドウにアクセスします (15 ページの『モデム設定』を参照)。「モデム設定」ウィンドウで、モデムの設定値とダイヤルの設定値を指定できます。

リモート・ユーザー用の新しいログイン ID を作成するには、次のようにします。

1. ログイン ID フィールドに、リモート・ユーザーが使用する ID をタイプします。この ID は 8 文字まで指定できます。
2. リモート・ユーザーは、Netfinity システム管理 PCI アダプターにアクセスするにはログイン ID とともにパスワードを入力する必要があります。パスワードの設定をクリックして「パスワードの設定」ウィンドウをオープンします。  
「パスワードの設定」ウィンドウで、
  - a. 新規パスワードの入力フィールドに、パスワードをタイプします。  
注: このパスワードは、長さが 5-8 文字で、少なくとも 1 桁は数字が含まれる必要があります。
  - b. 新規パスワードの再入力フィールドに、新規パスワードの入力フィールドにタイプした同じパスワードをタイプします。
  - c. 適用をクリックしてこのパスワードを保管し、「パスワードの設定」ウィンドウをクローズします。
3. 適用をクリックして新しいユーザー ID を保管します。

現在選択したログイン ID を削除するには、

1. 構成するユーザープロファイル フィールドの横のスピン・ボタンを使用して、以前に構成設定したユーザー・プロファイルを選択します。
2. ログイン ID フィールドをクリックします。

3. Backspace または Delete キーを使用して、現在表示されているログイン ID を削除します。
4. 適用をクリックしてユーザー ID を除去します。

#### 重要

セキュリティの目的で、システム管理サービスを使用してユーザー名とパスワードを変更してください。

Netfinity システム管理 PCI アダプターのマイクロコードを更新すると、デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD) はリセットされます。前にこれらを変更したことがある場合、ユーザー名とパスワードを再度変更する必要があります。

## システム管理プロセッサ・クロック・グループ

システム管理プロセッサ・クロック・グループで選択可能な選択項目を使用してご使用の Netfinity システム管理 PCI アダプターが報告する日時を設定します。

注: システム管理プロセッサ・クロックは、システム・クロックとは別個のもので、独立しています。この設定に変更を行ってもシステム・クロックには影響しません。

時刻または日付を変更するには、

1. クロックの設定チェック・ボックスにチェックがあることを確かめます。このチェック・ボックスは、システム管理サービスを使用可能にして現在保管されている日時を変更するためにはチェックを入れる必要があります。
2. 各フィールドの横のスピン・ボタンを使用して時刻または日付を設定します。
  - 時刻フィールドは、左から右に、時、分、および秒を表します。
  - 日付フィールドは、左から右に、月、日、および年を表します。
3. 適用をクリックして新しい時刻と日付を保管します。

## POST タイムアウト

POST タイムアウト フィールドは、POST タイムアウト・イベントを生成する前にシステムのパワーオン・セルフテスト (POST) が完了するのを Netfinity システム管理 PCI アダプターが待機する秒数を示します。POST が完了に構成設定した時間数よりも長くかかり、かつ POST タイムアウト チェック・ボックス (「リモート・アラート設定」ウィンドウの アラート使用可能にする グループにある) にチェックがある場合、Netfinity システム管理 PCI アダプターは一度システムを自動的に再始動してアラートをすべての使用可能になっているリモート・アラート・エントリーに送信しようとしています。システムが再始動されると、POST タイムアウトは、システムが正常に遮断され再始動されるまで自動的に使用不能にされます。

注: このチェック・ボックスにチェックを入れずに POST タイムアウトが検出された場合、システムは再始動しますがアラートは送信されません。

POST タイムアウト値を設定するには、POST タイムアウト フィールドの横のスピン・ボタンを使用して POST が完了するのを Netfinity システム管理 PCI アダプターが待機する秒数を設定します。次に、適用をクリックしてこの値を保管します。設定できる最大の POST タ

タイムアウト値は、7650 秒です。この値を 0 に設定すると、POST タイムアウトの検出は使用できません。

「リモート・アラート設定」ウィンドウについては、21ページの『リモート・アラート設定』を参照してください。

## ローダー・タイムアウト

ローダー・タイムアウト フィールドは、ローダー・タイムアウト・イベントを生成する前にシステムのロード・プロセスが完了するのを Netfinity システム管理 PCI アダプターが待機する秒数を示します。ローダー・タイムアウトは、POST の完了とオペレーティング・システム (O/S) の起動との間に経過する時間を計測します。これが完了に構成設定した時間数よりも長くかかり、かつ ローダー・タイムアウト チェック・ボックス（「リモート・アラート設定」ウィンドウのアラート使用可能にするグループにある）にチェックがある場合、Netfinity システム管理 PCI アダプターは一度システムを自動的に再始動してアラートをすべての使用可能になっているリモート・アラート・エントリーに送信しようとします。システムが再始動されると、ローダー・タイムアウトは、システムが正常に遮断され再始動されるまで自動的に使用不能にされます。

注: このチェック・ボックスにチェックを入れずにローダー・タイムアウトが検出された場合、システムは再始動しますがアラートは送信されません。

ローダー・タイムアウト値を設定するには、ローダー・タイムアウト フィールドの横のスピン・ボタンを使用して POST の完了とタイムアウト・イベントを生成する前の O/S の始動との間で Netfinity システム管理 PCI アダプターが待機する秒数を設定します。次に、適用をクリックしてこの値を保管します。設定できる最大のローダー・タイムアウト値は、7650 秒です。この値を 0 に設定すると、ローダー・タイムアウトの検出は使用できません。

「リモート・アラート設定」ウィンドウについては、21ページの『リモート・アラート設定』を参照してください。

## O/S タイムアウト

定期的信号が Netfinity システム管理 PCI アダプターから O/S に送られ、O/S が正しく実行していることを確認します。O/S タイムアウト・イベントが発生するのは、O/S が 6 秒間内に信号に応答しない場合です。O/S タイムアウト フィールドは、Netfinity システム管理 PCI アダプターが O/S タイムアウトのチェックの間に待機する秒数を示します。O/S が 6 秒以内に応答できない場合、Netfinity システム管理 PCI アダプターはシステムの再始動を試みます。また、O/S タイムアウト チェック・ボックス（「リモート・アラート設定」ウィンドウのアラート使用可能にするグループにある）にチェックがある場合、Netfinity システム管理 PCI アダプターは一度システムを自動的に再始動してアラートをすべての使用可能になっているリモート・アラート・エントリーに送信しようとします。

注: このチェック・ボックスにチェックを入れずに O/S タイムアウトが検出された場合、システムは再始動しますがアラートは送信されません。

O/S タイムアウト値を設定するには、O/S タイムアウト フィールドの横のスピン・ボタンを使用して、O/S タイムアウトのチェックをする際次のチェックまでに Netfinity システム管理 PCI アダプターが待機する秒数を設定します。次に、適用をクリックしてこの値を保管します。設定できる最大の O/S タイムアウト値は、255 秒です。この値を 0 に設定すると、O/S タイムアウトの検出は使用できません。

「リモート・アラート設定」ウィンドウについては、21ページの『リモート・アラート設定』を参照してください。

## 電源オフ遅延

電源オフ遅延フィールドは、システムの電源を切る前にオペレーティング・システムの遮断プロセスが完了するのを Netfinity システム管理 PCI アダプターが待機する秒数を示します。

Netfinity システム管理 PCI アダプターが遮断プロシーチャーを開始して、電源オフ チェック・ボックス（「リモート・アラート設定」ウィンドウの アラート使用可能にする グループにある）にチェックがある場合、Netfinity システム管理 PCI アダプターは自動的にアラートをすべての使用可能になっているリモート・アラート・エントリーに送信しようとしています。このアラートは、システムの電源が切られ、電源オフ遅延時間が経過してから送信されません。

電源オフ遅延値を設定するには、電源オフ遅延フィールドの隣りのスピン・ボタンを使用して、システムの電源を切る前にシステムのオペレーティング・システムの遮断が完了するのを Netfinity システム管理 PCI アダプターが待機する秒数を示します。次に、適用をクリックしてこの値を保管します。設定できる最大の電源オフ遅延値は、9999 秒です。この値を 0 に設定すると、電源オフ遅延は使用できません。

「リモート・アラート設定」ウィンドウについては、21ページの『リモート・アラート設定』を参照してください。

## 他の構成設定機能

「構成設定」ウィンドウには、これらの 3 つのボタンがあります。

ボタン	説明
最新表示	最新表示をクリックすると、日付、時刻、最後のログインを含む、「構成設定」ウィンドウに表示されるすべてのデータを更新します。
リセット	リセットをクリックすると、構成設定、ダイヤルアウト設定値、拡張ダイヤルアウト設定値を含む、設定済みのすべてのシステム管理設定値をデフォルト値に戻します。  重要: 以前に構成設定されたすべてのシステム管理設定値は、永久に失われます。
キャンセル	キャンセルをクリックすると、変更があっても保管せずにこのウィンドウをクローズします。

---

## モデム設定

「モデム設定」ウィンドウを使用して、モデムとダイヤルの設定値を指定します。このウィンドウをオープンするには、「構成の設定」ウィンドウ (10ページの『構成の設定』を参照) で モデムをクリックします。

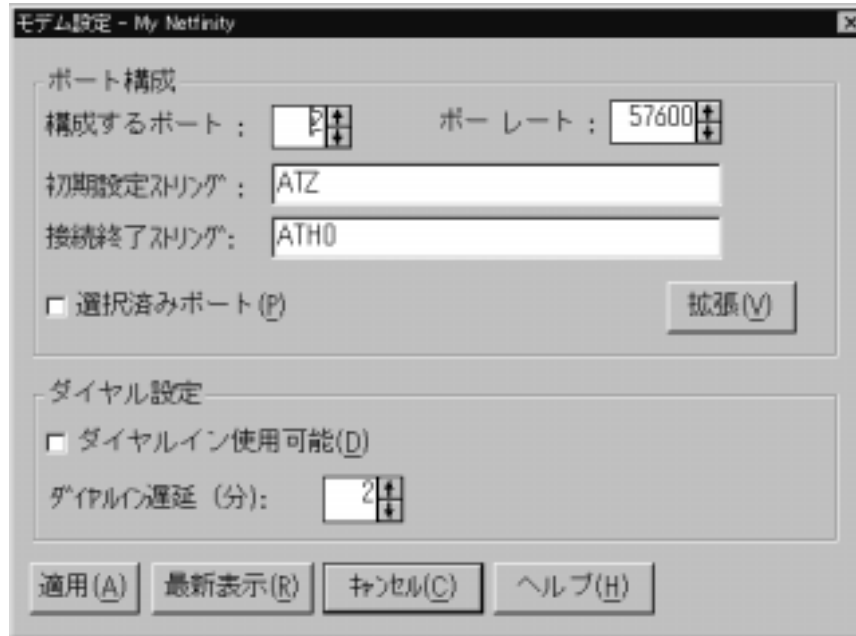


図 4. 「モデム設定」ウィンドウ

## ポート構成グループ

ポート構成グループを使用して、システム管理イベントが発生したときにアラートを送信するのに使用されるモデムを指定し構成設定します。ポート構成グループには、次の項目が含まれています。

項目	説明
構成するポート	<p>スピンのボタンを使用して、モデムを構成して使用するポートを選択します。このスピン・ボタンは、ユーザーの Netfinity システム管理 PCI アダプターで使用できる値だけを表示します。</p> <p>使用するため選択したポートは、Netfinity システム管理 PCI アダプターまたはオペレーティング・システムのどちらかが使用するモデムの使用可能度に影響します。システムまたはシステム管理サービスで使用できるポートは、使用するハードウェア構成によって異なります。使用可能なポートについては、17ページの『システム管理』を参照してください。</p>
選択済みポート	<p>このチェック・ボックスは、構成するポート フィールドに現在表示されたポート番号が、Netfinity システム管理 PCI アダプターによって使用されるために現在指示されているポートであるかどうかを示します。Netfinity システム管理 PCI アダプターを構成設定して現在表示されているポート番号を使用したい場合には、このチェック・ボックスにチェックを入れます。</p>
初期設定ストリング	<p>指定したモデムで 사용되는初期設定ストリングをタイプします。デフォルトのストリングは提供されています (ATE0)。このストリングは、ダイヤルアウト機能が正しく働かない場合を除いて、変更しないでください。初期設定ストリングを変更する必要がある場合には、19ページの『初期設定ストリングの指針』を参照してください。</p>
接続終了ストリング	<p>モデムに指示して接続を切断するために使用する初期設定ストリングをタイプします。デフォルトのストリングは提供されています (ATH0)。このストリングは、ダイヤルアウト機能が正しく働かない場合を除いて、変更しないでください。初期設定ストリングを変更する必要がある場合には、19ページの『初期設定ストリングの指針』を参照してください。</p>
拡張ボタン	<p>このボタンをクリックして「拡張ポート構成」ウィンドウをオープンします (17ページの図5を参照)。</p>

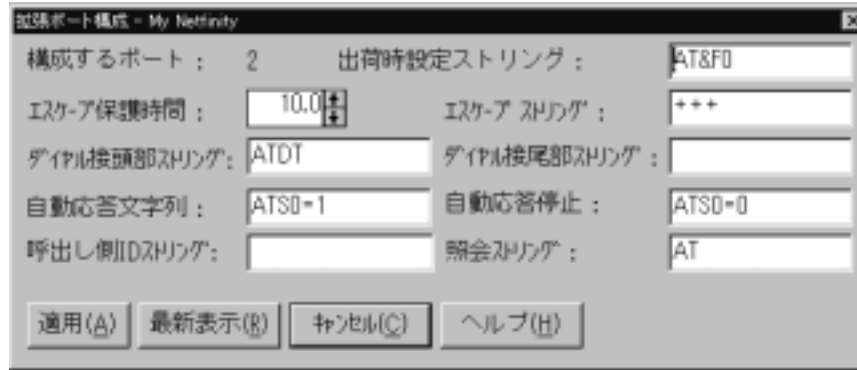


図 5. 「拡張ポート構成」ウィンドウ

「拡張ポート構成」ウィンドウには、次の項目が含まれています。

項目	説明
呼出し側 ID ストリング	モデムから呼び出し元 ID 情報を入手するために使用する初期設定ストリングをタイプします。
出荷時設定ストリング	モデムが初期設定されたときモデムを工場出荷時設定値に戻す初期設定ストリングをタイプします。デフォルトは、AT&F0 です。
照会ストリング	モデムが接続されているかどうかを検出するために使用する初期設定ストリングをタイプします。デフォルトは、AT です。
エスケープ・ストリング	モデムが別のモデムと現在通信している (接続されている) ときこのモデムをコマンド・モードに戻す初期設定ストリングをタイプします。デフォルトは、+++ です。
エスケープ保護時間	エスケープ・ストリングをモデムに発行する前後の時間の長さはこのフィールドにタイプします。この値は、10 ミリ秒の間隔で計測されます。デフォルト値は、1 秒です。
ダイヤル接頭部ストリング	ダイヤルする番号の前に使用する初期設定ストリングをタイプします。デフォルトは、ATDT です。
ダイヤル接尾部ストリング	番号をダイヤルしてモデムに指示してダイヤルを停止した後で使用する初期設定ストリングをタイプします。デフォルトは、改行文字または ^M です。
自動応答文字列	モデムに指示して電話が鳴ったときに応答するために使用する初期設定ストリングをタイプします。デフォルトは、2 回鳴ってから応答するまたは ATS0=2 です。
自動応答停止	モデムに指示して電話が鳴ったときに自動的に応答を停止するために使用する初期設定ストリングをタイプします。デフォルトは、ATS0=0 です。

## システム管理

使用するため選択したポートは、Netfinity システム管理 PCI アダプターまたはオペレーティング・システムのどちらかが使用するモデムの使用可能度に影響します。システムまたはシステム管理サービスで使用できるポートは、使用するハードウェア構成によって異なります。

- システムにシステム管理プロセッサしかない場合には、次のテーブルを使用して、使用可能なポートを決定してください。

物理ポート (ラベルのとおり)	A	B	C
システム管理で使用可能なポート	ポート 1 共用	N/A	ポート 2 専用
オペレーティング・システムで使用可能なポート	COM 1 共用	COM 2	N/A

- システムにシステム管理 PCI アダプターしかない場合には、次のテーブルを使用して、使用可能なポートを決定してください。

物理ポート (ラベルのとおり)	A	B	MODEM	COM_AUX
システム管理で使用可能なポート	N/A	N/A	ポート 1 共用	ポート 2 専用
オペレーティング・システムで使用可能なポート	COM 1	COM 2	COM 3 共用	N/A

- システムにシステム管理 PCI アダプターとシステム管理プロセッサがある場合には、次のテーブルを使用して、使用可能なポートを決定してください。

物理ポート (ラベルのとおり)	A	B	C	MODEM	COM_AUX
システム管理で使用可能なポート	ポート 1 共用	N/A	ポート 2 専用	N/A	N/A
オペレーティング・システムで使用可能なポート	COM 1 共用	COM 2	N/A	N/A	N/A

注:

- 共用ポートは、システムが稼働しているときにオペレーティング・システムによって認識されます。共用ポートは、システムの起動時または電源を切るときにシステム管理 PCI アダプターまたはプロセッサによって認識されます。また、共用ポートは、DOS で始動したとき、システムによって認識されますが、システム管理 PCI アダプターまたはプロセッサによっては認識されません。
- システム管理 PCI アダプターだけをもつシステムでは、デバイス・ドライバはオペレーティング・システムが COM3 を認識するために実行していなければなりません。

## ダイヤル設定グループ

ダイヤル設定を使用して、モデムに関連した設定値を指定したり、システム管理イベントが発生したときにアラートを送信するために使用するモデムを構成設定します。ダイヤル設定グループには、次の項目があります。

項目	説明
ダイヤルイン 使用可能	このチェック・ボックスをチェックすると、リモート・ユーザーが Netfinity システム管理 PCI アダプターにダイヤルしたり、アクセスできるようになります。このボックスにチェックがなければ、リモート・ユーザーはリモートで Netfinity システム管理 PCI アダプターにアクセスできません。このチェック・ボックスにチェックを入れた後またはチェックを外した後で、適用をクリックすると、新しい設定値が保管されます。
再試行限界値	<p>スピン・ボタンを使用して、システム管理がアラートの送信の試行を追加して行う回数を選択します。</p> <p>再試行限界値は、アラート情報を英数字ページャーに送信する試行だけに適用されます。アラート情報を Netfinity システムまたは数字ページャーのどちらかに送信する場合には、この情報の送信の試行は 1 回だけです。</p> <p>このフィールドの最大値は、8 です。</p>



項目	説明
再試行遅延	<p>スピン・ボタンを使用して、ダイヤルアウトの試行を行う前にシステム管理が待機する秒数を指定します。</p> <p>このフィールドの最小値は、30 秒で、最大値は、240 秒です。</p>
始動中の占有ポート	<p>このチェック・ボックスをチェックすると、シリアル・ポートを Netfinity システム管理 PCI アダプター専用予約します。このボックスをチェックすると、アダプターの統合通信ポートの 1 つを予約します。このチェック・ボックスにチェックを入れた後またはチェックを外した後で、適用をクリックすると、新しい設定値が保管されます。</p> <p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. システムをダイヤルイン・アクセスできるように構成する場合には、このボックスをチェックします。このチェック・ボックスにチェックがなければ、アダプターがダイヤルアウトのためポートの再利用を要求しない限り、このシステムへのダイヤルインはできません。システムに電源が入っているかどうかに関係なく、いつでもダイヤルインができるように Netfinity システム管理 PCI アダプターを構成したい場合には、このチェック・ボックスにチェックを入れる必要があります。このチェック・ボックスにチェックを入れると、指定したポートを自分のシステムが使用するように構成することはできません。</li> <li>2. ポート C は、Netfinity システム管理 PCI アダプターだけに専用で使用されます。ポート A はオペレーティング・システムによって使用され、次の条件のいずれかが存在する場合だけ Netfinity システム管理 PCI アダプターだけで使用可能です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• サーバーがオフである</li> <li>• Netfinity システム管理 PCI アダプターがクリティカル使用可能アラート・イベントを実行するポートを必要とする (この場合、Netfinity システム管理 PCI アダプターはオペレーティング・システムからポートの制御を奪って、ダイヤルアウトし、サーバーの電源を切ってご使用のハードウェアへの損傷を回避します)。</li> </ul> </li> </ol>
間隔秒数	<p>アラートを送信する複数のリモート・アラート・エントリーを構成した場合、Netfinity システム管理 PCI アダプターはこれらのエントリーのそれぞれへのコンタクトを順次試みます。スピン・ボタンを使用して、別個のリモート・アラート・エントリーのダイヤルアウトを試行する際次の試行までに Netfinity システム管理 PCI アダプターが待機する秒数を指定します。</p> <p>このフィールドの最小値は、15 秒で、最大値は、120 秒です。</p>
ダイヤルイン遅延 (分)	<p>ダイヤルイン遅延 (分) フィールドは、有効なダイヤルイン・アクセスが許可されるまでに 6 回のダイヤルインを続けて試行して正しくないユーザー ID またはパスワードを使用した後経過が必要な分数を示します。6 回連続してログインを失敗した後、ダイヤルイン・アクセスは、指定した分数だけ使用できなくなり、Netfinity システム管理 PCI アダプターは、6 回連続してログインを失敗によってダイヤルイン・アクセスが中断されたことを示すエントリーをイベント・ログに追加し、「安全保護」チェック・ボックスにチェックがあった場合アラートの送信を試みます (22 ページの図7を参照)。</p> <p>このフィールドの最小値は、4 分で、最大値は、240 分です。</p> <p>注: Netfinity マネージャー V5.20.5 およびそれ以降をお使いの場合、「再試行限界値」、「間隔秒数」、「再試行遅延」の設定は、「リモート・アラート設定」ウィンドウの「リモート・アラート計画」グループで行います。「モデム設定」ウィンドウの「ダイヤル設定」グループでは設定できませんのでご注意ください。</p>

## 初期設定ストリングの指針

新しい初期設定ストリングを指定する必要がある場合、ご使用のモデムに付属のユーザーズ・ガイドを参照してください。初期設定ストリングには、次のような、使用するモデムを構成設定するコマンドが含まれていなければなりません。

- コマンド・エコーの OFF
- オンライン文字エコーの OFF
- 結果コード ENABLED
- パーバル結果コード ENABLED
- BUSY および DT 検出に関するすべてのコードと接続メッセージ

- プロトコル ID の追加 - LAPM/MNP/NONE V42bis/MNP5
- 通常の CD 操作
- DTR ON-OFF ハングアップ、AA を使用不能化、およびコマンド・モードへの復帰
- CTS ハードウェア・フロー制御
- コンピューターへの受信データの RTS 制御
- 待機非破壊中断、非エスケープ状態

注: これらのコマンドで使用される略語は、次の意味を持っています。

AA	自動応答
CD	キャリア検知
CTS	送信可
DT	データ転送
DTR	データ端末レディー
RTS	送信準備完了

## ネットワーク設定

「ネットワーク設定」ウィンドウ (図6に示される) を使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターでのネットワーク設定値を指定します。「ネットワーク設定」ウィンドウをオープンするには、「構成設定」ウィンドウ (10ページの『構成の設定』を参照) でネットワークをクリックします。

注: このウィンドウを使用できるのは、システム管理サービスを使用して Netfinity システム管理 PCI アダプターをもつシステムを管理している場合、またはダイナミック接続マネージャーを使用して TCP/IP、シリアル、または ASM インターコネクトと Netfinity システム管理 PCI アダプターとのリンクを確立した場合だけです。

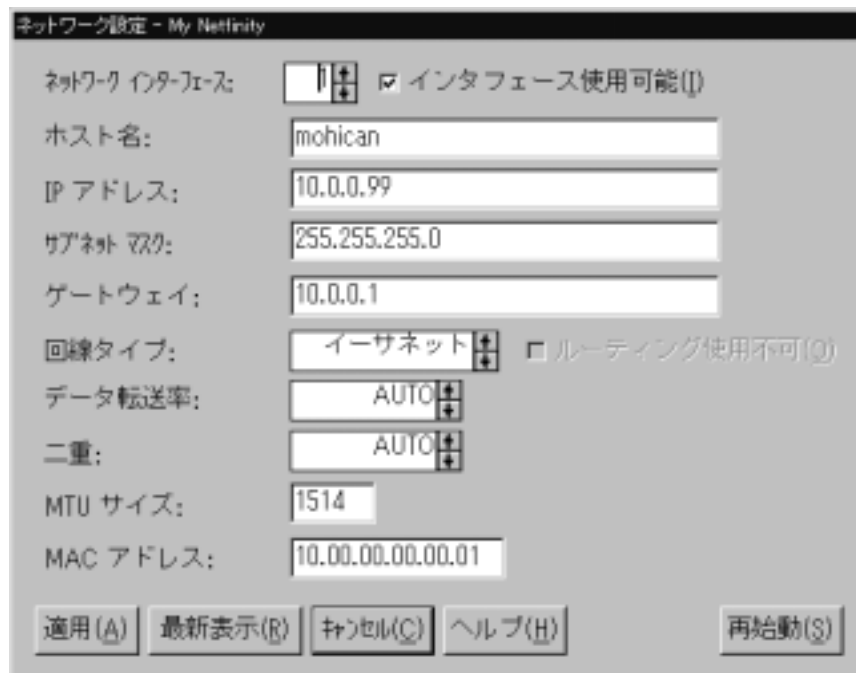


図 6. 「ネットワーク設定」ウィンドウ

「ネットワーク設定」ウィンドウには、次の項目があります。

項目	説明
ネットワーク・インターフェース・スピン・ボックス	スピン・ボタンを使用して、構成したいネットワーク・インターフェースを選択します。使用したいネットワーク・インターフェースを選択したら、インターフェース使用可能チェック・ボックスにチェックを入れます。
ホスト名	Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用する TCP/IP ホスト名をタイプします。
IP アドレス	Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用する IP アドレスをタイプします。
サブネット・マスク	Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用するサブネット・マスクをタイプします。
ゲートウェイ	Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用するゲートウェイの TCP/IP アドレスをタイプします。
回線タイプ	スピン・ボタンを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用するライン・タイプを選択します。選択できる項目は、イーサネット、PPP、およびトークンリングです。必要に応じて、ルーティング チェック・ボックスにチェックを入れます。
データ転送率	スピン・ボタンを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用するデータの転送速度を選択します。選択できる項目は、AUTO、4M、16M、10M、および 100M です。
二重	スピン・ボタンを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用する全二重方式を選択します。選択できる項目は、AUTO、FULL および HALF です。
MTU サイズ	Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用する最大伝送単位 (MTU) 値をタイプします。
MAC アドレス	Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用しているネットワーク・アダプターのメディア・アクセス制御 (MAC) アドレスをタイプします。

これらの設定値に変更があった場合変更の後で、まず **適用** をクリックして変更内容を保管し、次に **再始動** をクリックして Netfinity システム管理 PCI アダプターを再始動して変更を有効にします。Netfinity システム管理 PCI アダプターでのネットワーク設定値の変更が有効になるのは、アダプターを再始動した後です。

#### 重要

Netfinity システム管理トークンリング接続を導入している場合、システム管理 PCI アダプターに含まれているイーサネット・ポートを使用可能にしたり、使用してはいけません。ご使用のアダプターに IBM Turbo 16/4 Token Ring PCMCIA カードが導入されている場合にイーサネット・ポートを使用可能にすると、システムが不安定になる原因になります。イーサネット・ポートを使用可能にしたり、構成設定したり、使用するには、最初にシステム管理 PCI アダプターから IBM Turbo 16/4 Token Ring PCMCIA カードを取り外す必要があります。

## リモート・アラート設定

「リモート・アラート設定」ウィンドウ (22ページの図7に示されている) を使用して、システム管理アダプターまたはプロセッサのアラート送信機能を構成設定します。リモート・アラート・エントリーを構成した場合、システム管理アダプターまたはプロセッサは、アラート使用可能にするグループから選択したイベントのどれかが発生したとき、リモートの Netfinity システム (シリアル接続またはネットワーク接続を介して)、数字ページャー、英数字ページャー、または SNMP コミュニティーにアラートの送信を試みます。このアラートには、発生したイベントの種類、イベントの発生日時、およびアラートを生成したシステムの名前についての情報が含まれています。

システム管理がアラートを SNMP コミュニティーに送信できるようにするには、その前にシステム管理 SNMP の設定値を構成設定する必要があります。SNMP の設定値を構成設定す

るには、**SNMP**をクリックします。これによって、「SNMP 設定」ウィンドウがオープンします。詳細については、25ページの『SNMP 設定』を参照してください

個々のクリティカルなおよび非クリティカルなダイヤルアウト・イベントにตอบสนองして、複数ページャーまたは Netfinity マネージャー・システムにアラートを送信するシステム管理アダプターまたはプロセッサを構成設定できます。したがって、ダイヤルアウト状況のテキストは、最初のアラート送信オペレーションが開始されると同時に、ダイヤルアウト・オンとなり、このアラート送信オペレーションが完了すると、ダイヤルアウト・オフに変わり、2番目のアラート送信オペレーションが開始されると、再びダイヤルアウト・オンとなり、この2番目のアラート送信オペレーションが完了すると、ダイヤルアウト・オフに変わり、これが順次繰り返されます。送信停止をクリックすると、Netfinity システム管理 PCI アダプターは現在アクティブなアラート送信オペレーションを取り止めて、次のオペレーションに進みます。

ご使用の Netfinity システム管理 PCI アダプターを 6 つまでの別個のリモート・アラート・エントリーをもつ構成に設定できます。

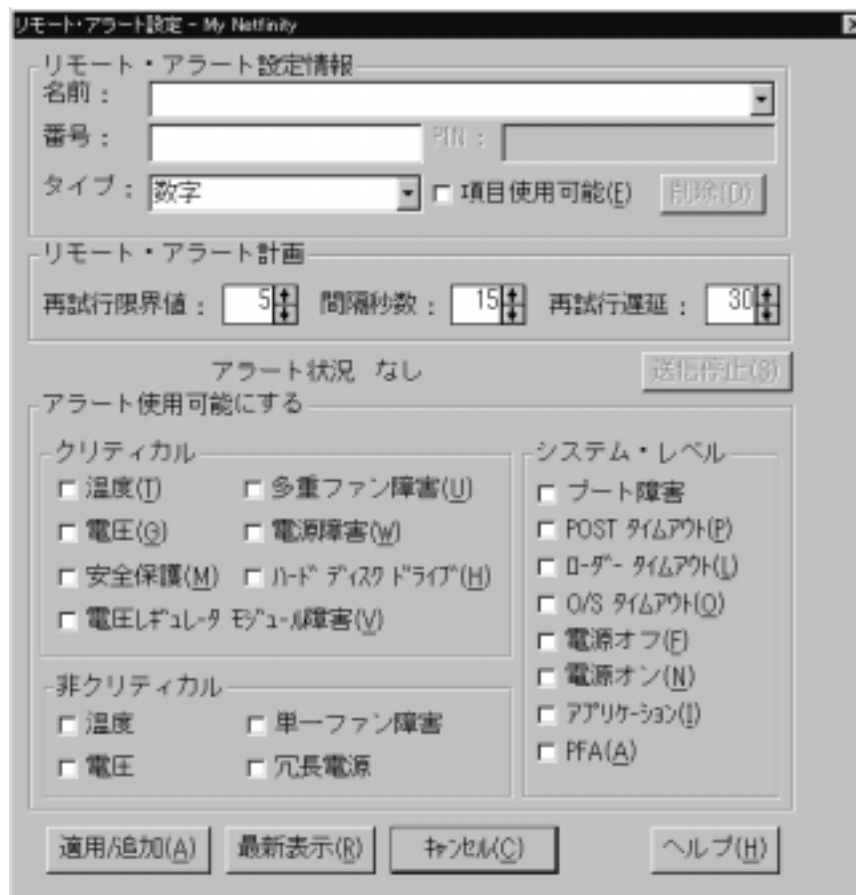


図 7. 「リモート・アラート設定」ウィンドウ

## リモート・アラート設定情報グループ

リモート・アラート・エントリーの編集または作成をするには、

1. 名前フィールドに、アラートの送信先の人またはシステムの名前をタイプします。名前フィールドの情報を使用できるのは、リモート・アラート・エントリーを識別する際のユーザーだけです。前に構成設定したリモート・アラート・エントリーを編集する場合、名前選択リストから編集したいエントリーを選択します。
2. 番号フィールドに、アラートの送信に使用する電話番号 (シリアル・リンクを使用しているページャーまたは Netfinity システムにアラートを送信する場合) または IP アドレス (ネットワーク・アダプターを使用しているシステムにアラートを送信する場合。このフィーチャーは Netfinity システム管理 PCI アダプターを使用した場合だけサポートされます。) をタイプします。  
**注:** ページング・サービスによっては、電話番号をダイヤルしてから数字データを送信するまでアラート・アクションが待機する時間を長くすることが必要となる場合があります。数字データを送信するまでの時間を長くするには、電話番号の終わりに 1 つまたは複数のコンマ (,) を追加します。コンマごとにモデムは、数字データの送信までに 2 秒待機することになります。
3. **PIN** フィールドに、英数字ページャー・プロバイダーが要求する個人識別番号をタイプします。このフィールドは、タイプ フィールドで英数字を選択した場合にだけアクティブになります。(日本では、英数字ページャーのサービスはありません)。
4. タイプ選択リストから、Netfinity システム管理 PCI アダプターがイベントの通知を送信するために試行する接続のタイプを選択します。数字 (標準的なページャーの場合)、英数字 (英数字ページャーの場合)、Netfinity シリアル (シリアル・リンクを使用してリモート Netfinity システムに接続する場合)、または Netfinity TCP/IP (TCP/IP リンクを使用してリモート Netfinity システムに接続する場合。Netfinity システム管理 PCI アダプターをもつシステムでだけ使用可能) を選択できます。
5. 項目使用可能チェック・ボックスにチェックを入れると、リモート・アラート・エントリーがアクティブになります。項目使用可能チェック・ボックスにチェックがなければ、このエントリーにアラートが送られません。
6. アラート使用可能にするグループからダイヤルアウト・イベントを選択します。チェックのあるイベントのどれかが発生すると、Netfinity システム管理 PCI アダプターは、番号フィールドに指定した電話番号または IP アドレスを使用して、タイプ フィールドで選択した方式を使用してイベントを記述するアラートを送信します。これらのイベントの詳細については、『アラート使用可能にするグループ』を参照してください。
7. 適用/追加をクリックしてこれらの設定値を保管します。

前に構成設定したリモート・アラート・エントリーを除去するには、名前選択リストからエントリーの名前を選択し、次に 削除を選択します。

## アラート使用可能にするグループ

アラート使用可能にするグループで選択できる項目を使用して、システム管理アダプターまたはプロセッサがコンタクトしているすべての現在構成設定されたエントリーになっているイベントを指定します。選択された項目があればこれらの項目は、Netfinity システム管理 PCI アダプターに検出されれば、タイプ フィールドで選択された方式を使用して、「Remote Alert Entry (リモート・アラート・エントリー)」ウィンドウで名前フィールドが指定した受信先に送信されているイベントを記述するアラートになります。

アラートがページャーに送信されている場合、システム管理は、このアラートの原因になったイベントについての情報を含めます。アラートが数字 (または標準の) ページャーに送信されている場合、ページには、原因になったイベントに対応するコード番号を含みます。アラートが英数字ページャーに送信されている場合、ページには、原因になったイベントを記述するコード番号とテキスト・ストリングの両方を含みます。ページャーに送信される数字コードとテキスト・ストリングについては、以下のテーブルを参照してください。

すべての数字コードとテキスト・ストリングは、それらの送信にシリアルまたは TCP/IP リンクのいずれを使用したかに関係なく、送信された Netfinity マネージャー・アラートに含まれます。また、すべての情報は送信された SNMP アラートにも含まれます。

アラート使用可能にするグループは、クリティカル、非クリティカル、およびシステムの各グループに分かれます。クリティカル・グループには、次の項目があります。

項目	説明 (チェックがある場合)	数字コード	テキスト・ストリング
温度	Netfinity システム管理 PCI アダプターは、モニター対象の温度がしきい値を超えると、アラートを送信して、次にシステムの遮断を自動的に開始します。	00	SYSTEM SHUTDOWN DUE TO TEMPERATURE
電圧	Netfinity システム管理 PCI アダプターは、モニター対象の電源の電圧が指定の作動範囲を外れると、アラートを送信します。	01	SYSTEM SHUTDOWN DUE TO VOLTAGE
安全保護	Netfinity システム管理 PCI アダプターは、6 回連続してリモート・ログインを試行して失敗すると、イベント・ログにエントリーを追加します。	02	SYSTEM TAMPER ALERT
電源レギュレーター・モジュール障害	Netfinity システム管理 PCI アダプターは、電圧調整モジュール (VRM) に障害が発生すると、アラートを送信して、次にシステムの遮断を自動的に開始します。	06	VRM FAILURE
多重ファン障害	Netfinity システム管理 PCI アダプターは、システムの冷却ファンの 2 つ (またはそれ以上) に障害が発生すると、アラートを送信し、そしてシステムの遮断を自動的に開始します。	03	MULTIPLE SYSTEM FAN FAILURES
電源障害	Netfinity システム管理 PCI アダプターは、システムの電源機構に障害が発生すると、アラートを送信します。	04	POWER SUPPLY FAILURE
ハードディスク・ドライブ	Netfinity システム管理 PCI アダプターは、システムのハードディスク・ドライブの 1 つまたは複数に障害が発生すると、アラートを送信します。	05	DASD FAULT

非クリティカル・グループには、次の項目があります。

項目	説明 (チェックがある場合)	数字コード	テキスト・ストリング
温度	Netfinity システム管理 PCI アダプターは、モニター対象の温度がしきい値を超えると、アラートを送信します。しかし、クリティカル温度イベントと違って、このアラートはシステムの遮断を自動的に開始しません。	12	NON-CRITICAL TEMPERATURE THRESHOLD EXCEEDED
電圧	Netfinity システム管理 PCI アダプターは、モニター対象の電圧がしきい値を超えると、アラートを送信します。	13	VOLTAGE

項目	説明 (チェックがある場合)	数字コード	テキスト・ ストリング
単一ファン障害	Netfinity システム管理 PCI アダプターは、システムの冷却ファンの 1 つに障害が発生すると、アラートを送信します。	11	SINGLE FAN FAILURE

システム・グループには、次の項目があります。

項目	説明 (チェックがある場合)	数字コード	テキスト・ ストリング
POST タイムアウト	Netfinity システム管理 PCI アダプターは、POST タイムアウト値 (「構成設定」ウィンドウで指定) を超えると、アラートを送信します。	20	POST/BIOS WATCHDOG EXPIRED.SYSTEM RESTARTED
ローダー・タイムアウト	Netfinity システム管理 PCI アダプターは、ローダー・タイムアウト値 (「構成設定」ウィンドウで指定) を超えると、アラートを送信します。	26	LOADER WATCHDOG EXPIRED. SYSTEM RESTARTED
O/S タイムアウト	Netfinity システム管理 PCI アダプターは、O/S タイムアウト値 (「構成設定」ウィンドウで指定) を超えると、アラートを送信します。	21	OPERATING SYSTEM WATCHDOG EXPIRED. SYSTEM RESTARTED
電源オフ	Netfinity システム管理 PCI アダプターは、システムの電源が切られると、アラートを送信します。	23	SYSTEM COMPLEX POWERED OFF
電源オン	Netfinity システム管理 PCI アダプターは、システムの電源が入ると、アラートを送信します。	24	SYSTEM COMPLEX POWERED ON
アプリケーション	Netfinity システム管理 PCI アダプターは、Netfinity アラート (Netfinity マネージャーは、アラートを直接 Netfinity システム管理 PCI アダプターにアラート・マネージャーを使用して送信でき、またフォワード・アラートをシステム管理サブシステム・アクションに送信できます) を受信すると、アラートを送信します。	22	APPLICATION LOGGED EVENT
PFA	Netfinity システム管理 PCI アダプターは、システムから障害予知機能 (PFA®) アラートを受信すると、アラートを送信します。	27	PFA

## SNMP 設定

「SNMP 設定」ウィンドウ (26ページの図8に示される) を使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターの SNMP 設定値を指定します。これらの設定値は、Netfinity システム管理 PCI アダプターがアラートをネットワークの SNMP マネージャーに送信するように正しく構成設定する必要があります。「SNMP 設定」ウィンドウをオープンするには、「システム管理」ウィンドウから リモート・アラート設定をクリックし、次に **SNMP** をクリックします。

注: このウィンドウを使用できるのは、システム管理サービスを使用して Netfinity システム管理 PCI アダプターをもつシステムを管理している場合、またはダイナミック接続 マネージャーを使用して TCP/IP、シリアル、または ASM インターコネクトと

Netfinity システム管理 PCI アダプターとのリンクを確立した場合だけです。Netfinity システム管理 PCI アダプターをもたないシステムに接続している場合には、このウィンドウは使用できません。

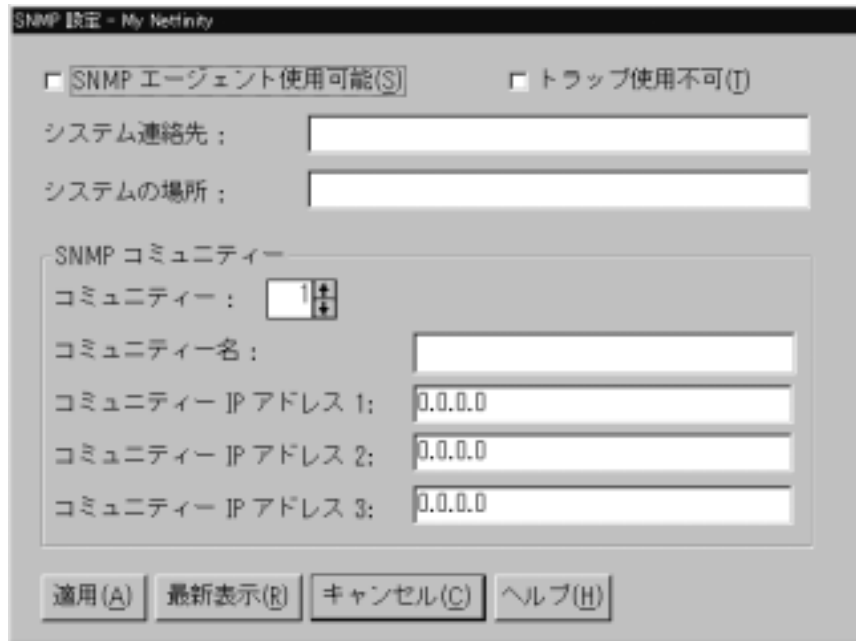


図 8. 「SNMP 設定」ウィンドウ

「SNMP 設定」ウィンドウには、次の項目があります。

項目	説明
SNMP エージェント使用可能	このチェック・ボックスにチェックを入れると、Netfinity システム管理 PCI アダプターはネットワークの SNMP マネージャーにアラートを送信できるようになります。
トラップ使用不可	このチェック・ボックスにチェックを入れると、SNMP トラップを送信できなくなります。
システム連絡先	このフィールドに SNMP システム連絡先の名前をタイプします。
システムの場所	このフィールドにシステムの位置に関する情報をタイプします。
コミュニティ	このスピン・ボタンを使用して SNMP コミュニティを 3 つまで選択および定義します。 注: SNMP アラートは、現在選択されている SNMP コミュニティにだけ送信されます。
コミュニティ名	このフィールドに選択した SNMP コミュニティの名前をタイプします。
コミュニティ IP アドレス 1、2、および 3	これらのフィールドには選択した SNMP コミュニティの IP アドレスをタイプします。

これらの設定値に変更があった場合変更の後で、まず 適用をクリックして変更内容を保管します。次に、このウィンドウをクローズして、「ネットワーク設定」ウィンドウで 再始動をクリックします。Netfinity システム管理 PCI アダプターでのネットワーク設定値の変更が有効になるのは、アダプターを再始動した後です。



## イベント・ログ

イベント・ログを使用して、「イベント・ログ」ウィンドウ(図9に示される)をオープンします。このウィンドウには、システム管理アダプターまたはプロセッサのイベント・ログに現在保管されているすべてのエントリーがあります。すべてのリモート・アクセスの試行および発生したダイヤルアウト・イベントについての情報は、システム管理アダプターまたはプロセッサのイベント・ログに記録されます。



図 9. 「イベント・ログ」ウィンドウ

注:

1. Netfinity サーバーに導入された Netfinity システム管理 PCI アダプターとともにシステム管理サービスを使用している場合には、イベント・ログにテキスト I2C Message. で始まるエントリーが入ります。これらのメッセージは、通常のものでシステムの問題が発生した場合にサービス担当員によって使用されるためのものです。
2. システム管理サービスを Netfinity 8500 M10、7000 M10、7000 M20、5600、5500、5500 M10、5500 M20、または 5000 サーバーとともに使用している場合、イベント・ログには POST エラー・メッセージも含まれます。

次の機能は、「イベント・ログ」ウィンドウの「オプション」プルダウン・メニューから使用できます。

- |          |  |
|----------|--|
| ロード      | 「イベント・ログ」ウィンドウの内容を最新表示します。   |
| ファイルに印刷  | 「イベント・ログ」ウィンドウの内容をテキスト・ファイルに保管します。   |
| プリンターに印刷 | 「イベント・ログ」ウィンドウの内容をシステムに接続されたプリンターに送ります。                                    |
| ログの消去    | イベント・ログに現在保管されているすべてのエントリーを消去します（「イベント・ログ」ウィンドウで現在表示できないエントリーがあればそれらも含めて）。 |

注: ログの消去を使用してイベント・ログのエントリーを消去すると、これらのエントリーは永久に消去されて、検索できなくなります。

## 稼働パラメーター

「稼働パラメーター」ウィンドウ(図10を参照)は、システム管理アダプターまたはプロセッサがモニターした多くのシステム・コンポーネントの現在値または状況を示します。使用可能な値には、次のものが含まれます。

- 電源機構電圧
- アダプターの終端、アダプターの中央、マイクロプロセッサ、システム・ボード、およびハード・ディスク・ドライブ・バックプレーンなどのシステム・コンポーネントの現在の温度およびしきい値レベル

注:

1. モニター対象のシステム・コンポーネントは、システム管理アダプターまたはプロセッサで異なります。
  2. VRM 電圧はモニターされますが、表示されません。
- システム状態 (O/S 始動済み、O/S 実行中、POST 始動済み、POST 停止済み (エラー検出済み)、およびシステム電源オフ/状態不明を含む)
  - システム電源状況 (オンまたはオフ)
  - 電源オン時間-システムの電源がオンになっていた合計時間数 (これはすべての稼働時間の累積時間で、最後のシステム再始動からの時間ではありません)

位置	値	警告リセット	警告	ソフトリセット	ハードリセット
CPU前	31.00	41.00	51.00	61.00	65.00
CPU後	29.00	40.00	50.00	60.00	65.00
ディスク・バックプレーン	25.00	38.00	42.00	45.00	50.00

図 10. 「稼働パラメーター」ウィンドウ

## システム電源制御

「システム電源制御」ウィンドウを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターに指示してシステムの電源をオフにしたり、再始動したり、サーバーの電源をオンにします。電源制御オプションのどれを開始するにも、最初に 電源制御オプション使用可能チェック・ボックスをチェックします。このチェック・ボックスにチェックがない場合には、電源制御オプション フィールドは使用できません。

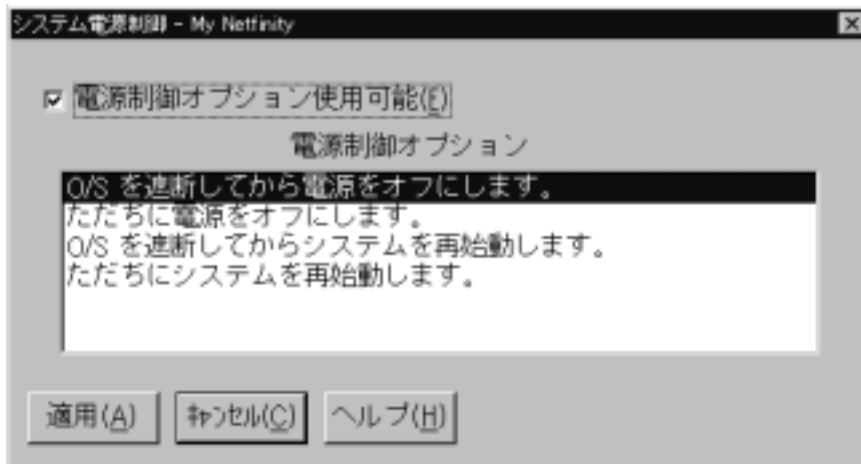


図 11. 「システム電源制御」ウィンドウ

次のシステム電源制御機能は、いつでも使用可能です。

機能	説明
O/S を遮断してから電源をオフにします	システムの電源を切る前に O/S の遮断を実行します。
ただちに電源をオフにします	即時にシステムの電源を切ります。
O/S を遮断してからシステムを再始動します	O/S の遮断を実行して、システムの電源を切り、次にシステムに電源をもう一度入れます。
ただちにシステムを再始動します	即時にシステムの電源を切り、次にシステムに電源を入れます。

モデムまたは TCP/IP リンクを介して Netfinity システム管理 PCI アダプターに直接接続されている場合には、ただちに電源をオンにします選択項目も使用可能になります。この機能は、サーバーの電源をオンにして、マイクロプロセッサが POST、ロード、および O/S 始動プロシージャーを実行できるようにします。

電源制御オプションを開始するには、

1. 電源制御オプション使用可能チェック・ボックスをチェックします。

注: 電源制御オプションのどれを開始するにも、最初に 電源制御オプション使用可能チェック・ボックスをチェックします。このチェック・ボックスにチェックがない場合には、電源制御オプション フィールドは使用できません。

2. 電源制御オプション フィールドで、アクティブにしたい電源制御オプションを選択します。
3. 適用をクリックします。

## リモート POST コンソール

システム管理リモート POST コンソール機能を使用して、POST 中に生成したすべてのテキスト出力をリモートでモニター、記録、および再生できます。リモート・システムで POST データをモニターしたり記録するには:

1. リモートの Netfinity システム管理 PCI アダプターに接続する。
2. 「リモート POST」ウィンドウをオープンする。
3. リモート・システムを再始動する (システム管理システム電源制御機能を使用する)。

すべての POST データは、リモート・システムが POST を完了するときに、リモート POST コンソールによって表示され記録されます。リモート・システムで POST をモニターしているときには、どの場所でも入力されてもすべてリモート・システムに自動的に中継されて、リモート・システムでの POST プロセスとの対話を可能にします。

POST が完了した後でデータを調べるには、リモート・システムとの接続を切断して、再生機能を使用します。

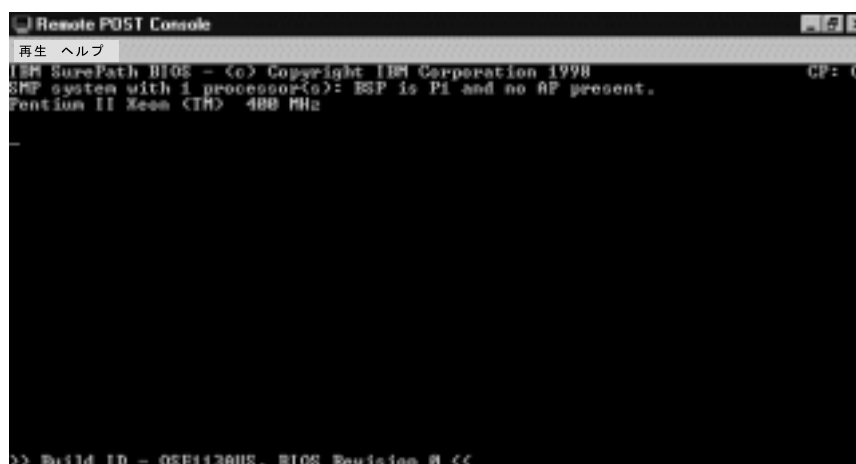


図 12. 「リモート POST」ウィンドウ

再生メニューで選択できる項目を使用して、最後のリモート POST 操作の間に取り込んだテキスト出力を再生します。POST の間にリモート・システムによって表示されたすべてのテキストは、リモート・システムに現れたのと同様に表示されます。

- 記録した POST データの再生を開始する、またはプレイバックを停止した後で記録した POST データの再生を再開するには、最後の **POST** の再生をクリックします。
- 記録した POST データのプレイバックを一時停止するには、**停止** をクリックします。
- 記録した POST データの表示を最初から再開するには、**再始動** をクリックします。
- **Fast**、**Medium**、または **Slow** をクリックして、「リモート POST」ウィンドウで記録した POST データを表示する速度を指定します。

注: リモート POST データを再生できるのは、リモート・システムの Netfinity システム管理 PCI アダプターに接続されていない場合だけです。

## Netfinity システム管理 PCI アダプター・マイクロコードの更新

### 重要

Netfinity システム管理 PCI アダプターのマイクロコードを更新すると、デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD) はリセットされます。前にこれらを変更したことがある場合、ユーザー名とパスワードを再度変更する必要があります。詳細については、10ページの『構成の設定』を参照してください。

Netfinity システム管理 PCI アダプター・マイクロコードを更新するには、

1. オプション メニューから、マイクロコードの更新... をクリックし、次に、システム管理 をクリックします。  
「ファイル選択」ウィンドウがオープンされます。
2. 「ファイル選択」ウィンドウを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプター・マイクロコードのアップデートが入っているソースのディスク・ドライブ (またはディスクレット・ドライブ) とディレクトリーを選択します。
3. **OK** をクリックして続行します。
4. 警告が表示され、続行すべきかどうかの確認を求められます。適用をクリックして続行するか、または キャンセル をクリックしてマイクロコードの更新プロセスを停止します。

Netfinity システム管理 PCI アダプター・マイクロコードの更新の続行を確認した場合、システム管理サービスは、マイクロコードのアップデートを Netfinity システム管理 PCI アダプターに適用します。

このプロセスの間、Netfinity システム管理 PCI アダプターの一部のモニター機能 (環境モニターなど) は使用不能にされます。マイクロコードを更新した後で、すべてのシステム・モニターは再開します。



## 第3章 Netfinity マネージャーをもたないシステム管理ハードウェアの構成

ServerGuide には、構成ユーティリティーが含まれていて、このユーティリティーを使用すると、Netfinity マネージャーとシステム管理サービスを使用せずに、システム管理 (ASM) PCI アダプターまたはプロセッサの構成設定ができます。構成ユーティリティーを使用して、次のことができます。

- Alert Settings (アラートの設定) を設定してアラート機能を使用可能または使用不能にする
- Dial In/Out settings (ダイヤルイン/ダイヤルアウトの設定) を構成設定する
- システム管理ハードウェアを識別する名前と番号、ASM ハードウェアが報告した日時、各種タイムアウト値を含む、General Settings (一般の設定) を設定し、システムの電源を入れるのをスケジュールする。
- Modem settings (モデムの設定) を構成設定する
- Network settings (ネットワークの設定) を構成設定する

構成ユーティリティーの始動は、次の 2 つの方法の中のいずれかで行うことができます。

- サーバーのシステム区画にアクセスして、システム管理構成ユーティリティーを始動する

ServerGuide を使用して Netfinity サーバーの構成設定をし、かつシステム区画の作成がユーザーのサーバーでサポートされている場合 (詳細については、*Learn About ServerGuide*を参照)、システム管理構成ユーティリティーはシステム区画メニューから使用可能です。サーバーを再始動して、POST の間に指示された時点で Alt+F1 を押します。

- Advanced System Management Configuration Utility (システム管理構成ユーティリティー) ディスケットを使用してシステムを始動する

システムにシステム区画がない場合には、ServerGuide ディスケット・ファクトリーを使用してシステム管理構成ユーティリティー・ディスクを作成できます。このディスクを作成した後、サーバーのディスク・ドライブに入れて、次にサーバーを再始動します。構成ユーティリティーは自動的に始動します。

構成ユーティリティーを使用するには、

1. Advanced System Management (システム管理) CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入して、システムを再始動します。CD-ROM からシステムを始動しない場合には、POST/BIOS セットアップを使用してブート・デバイスとして CD-ROM ドライブを構成します。詳細については、ご使用のシステムに付属のサーバー・ライブラリーを参照してください。
2. システムを始動すると、「メイン・オプション」メニューがオープンします。メイン・メニューには、次の選択項目が含まれています。
  - Hardware Status and Information (ハードウェアの状況と情報)
  - Configuration Settings (構成設定)
  - Exit Utility (ユーティリティーの終了)

上矢印キーと下矢印キーを使用してこれらのオプションを強調表示します。オンライン・ヘルプは、F1 を押すことによってそれぞれのオプションで使用でき、その間該当オプションは強調表示されます。一般ヘルプは、ヘルプ・ウィンドウのいずれかから F1 を押すことによって使用できます。オプションを選択するには、そのオプションを強調表示してから Enter を押します。

3. オプションを強調表示してから Enter を押します。

- Hardware Status and Information

Hardware Status and Information を選択して、システム管理ハードウェアの現在の状況を表示します。この情報の表示を終了したら、Esc を押すと「メイン・オプション」メニューに戻ります。

- Configuration Settings

Configuration Settings を選択して、システム管理ハードウェアの構成設定値を表示したり、変更します。Alert Settings (アラートの設定)、Dial In/Dial Out Settings (ダイヤルイン/ダイヤルアウトの設定)、General Settings (一般の設定)、Modem Settings (モデムの設定)、および Network Settings (ネットワークの設定) の表示または変更を行うことができます。

---

## Alert Settings (アラートの設定)

このウィンドウを使用して、ASM ハードウェアがサポートするすべての Critical (クリティカル)、Non-Critical (非クリティカル)、および System (システム) のアラートを使用可能にしたり、使用不可にします。これらのアラートそれぞれの説明と使用可能にした場合の効果については、21ページの『リモート・アラート設定』を参照してください。

矢印キーと Tab キーを使用すれば、フィールド間を移動できます。左矢印キーと右矢印キーを使用してそれぞれのアラートを使用可能にしたり、使用不可にします。オンライン・ヘルプを見たい場合は、F1 を押します。終了したら、F6 を押して保管し、「メイン・オプション」メニューに戻ります。保管せずに、「メイン・オプション」メニューに戻る場合には、Esc を押します。

---

## Dial In/Out Settings (ダイヤルイン/アウトの設定)

このウィンドウは、次の 2 つの部分に分かれています。

- Dial In (ダイヤルインの設定値の構成に使用)
- Dial Out (ダイヤルアウトの設定値の構成に使用)

このウィンドウの「Dial In」部分を使用するには、Tab キーまたは矢印キーを使用してカーソルを **User Profile to Configure** に移動します。次に、左矢印キーと右矢印キーを使用して「User Profile (ユーザー・プロファイル)」を選択します。一度 User Profile を選択すると、次の値を設定できます。

- Login ID
- Password
- Dialback (使用可能または使用不可)
- Number (ダイヤルバックの場合だけ使用)
- Read Only Access (使用可能または使用不可)
- Dial In (使用可能または使用不可)



- Dial In Delay (分数)

これらの値それぞれについては、11ページの『ダイヤルインの設定グループ』を参照してください。

終了したら、F6 を押して保管し、「メイン・オプション」メニューに戻ります。保管せずに、「メイン・オプション」メニューに戻る場合には、Esc を押します。

このウィンドウの「Dial Out」部分を使用するには、Tab キーまたは矢印キーを使用してカーソルを **User Profile to Configure** に移動します。次に、左矢印キーと右矢印キーを使用して「User Profile (ユーザー・プロファイル)」を選択します。一度 User Profile を選択すると、次の値を設定できます。

- Login ID
- Password
- 現在選択したエントリーを Enable (使用可能) または Disable (使用不可) にする
- Number
- PIN
- Connection Type (Numeric (数字)、Alphanumeric (英数字)、Serial (シリアル)、TCPIP)
- Description
- Dialout Retry Limit
- Dialout Number Spacing
- Dialout Retry Delay

これらの値それぞれについては、18ページの『ダイヤル設定グループ』を参照してください

終了したら、F6 を押して保管し、「メイン・オプション」メニューに戻ります。保管せずに、「メイン・オプション」メニューに戻る場合には、Esc を押します。

---

## General Settings (一般の設定)

「General Settings configuration (一般の設定の構成)」ウィンドウを使用して、次のことを行います。

- システム管理ハードウェアを識別する「Name (名前)」と「Number (番号)」を設定する
- ASM クロックの日時を設定する
- システムの電源を自動的に入れる日時を設定する
- POST、Loader (ローダー)、および O/S Timeout (タイムアウト) の値または Power Off Delay (電源オフ遅延) 値

Name と Number はユーザーに使用されるためのもので、ユーザーのネットワークでこれらのシステムを識別するのに役立ちます。Name と Number の値は、15 文字まで指定できます。

矢印キーと Tab キーを使用すれば、フィールド間を移動できます。オンライン・ヘルプを見たい場合は、F1 を押します。値の入力を終了したら、F6 を押して保管し、「メイン・オプション」メニューに戻ります。保管せずに、「メイン・オプション」メニューに戻る場合には、Esc を押します。

---

## Modem Settings (モデムの設定)

「Modem Settings (モデムの設定)」ウィンドウを使用して、ASM ハードウェアが使用するモデムを構成設定します。Modem Settings (モデムの設定) の値のそれぞれについては、15 ページの『モデム設定』を参照してください。

---

## Network Settings (ネットワークの設定)

「Network Settings configuration (ネットワークの設定構成)」ウィンドウを使用して、システム管理 PCI アダプターのネットワーク・インターフェース設定値を設定します。次の設定値を設定できます。

- Network Interface
- ネットワーク・インターフェースを Enable (使用可能) にする (または Disable (使用不可) にする)
- Host Name
- IP Address
- Subnet Mask
- Gateway
- Line Type
- Routing
- Data Rate
- Duplex
- MTU Size
- MAC Address

Network Settings (ネットワークの設定) の値のそれぞれについては、20ページの『ネットワーク設定』を参照してください

矢印キーと Tab キーを使用すれば、フィールド間を移動できます。オンライン・ヘルプを見たい場合は、F1 を押します。Network Settings (ネットワークの設定) の値の入力を終了したら、F6 を押して保管し、次に F9 を押してシステム管理 PCI アダプターをリセットします。保管せずに、「メイン・オプション」メニューに戻る場合には、Esc を押します。

注: システム管理 PCI アダプターは、Network Settings への変更が有効になる前にリセットする必要があります。Network Settings を変更した後で必ず F9 を押してください。

---

## SNMP Settings (SNMP の設定)

「SNMP Settings (SNMP の設定)」ウィンドウを使用して、システム管理 PCI アダプターが使用する SNMP の設定値を構成設定します。次の設定値を設定できます。

- SNMP Agent Enabled/Disabled
- Traps Disable
- System Contact
- System Location
- Community
- Community Name
- Community IP Address 1、2、および 3

SNMP Settings (SNMP の設定) の値のそれぞれについては、25ページの『SNMP 設定』を参照してください。

矢印キーと Tab キーを使用すれば、フィールド間を移動できます。オンライン・ヘルプを見たい場合は、F1 を押します。SNMP Settings (SNMP の設定) の値の入力を終了したら、F6 を押して保管し、次に F9 を押してシステム管理 PCI アダプターをリセットします。保管せずに、「メイン・オプション」メニューに戻る場合には、Esc を押します。

注: システム管理 PCI アダプターは、SNMP Settings への変更が有効になる前にリセットする必要があります。SNMP Settings を変更した後で必ず F9 を押してください。



---

## 第4章 Netfinity マネージャーをもたないシステム管理 PCI アダプターの使用

この章では、Netfinity マネージャーなしでの Netfinity システム管理 PCI アダプターの使用方法を説明します。

Netfinity マネージャーを使用して Netfinity システム管理 PCI アダプターにアクセスしたり管理できない場合には、端末プログラムとモデムを使用して Netfinity システム管理 PCI アダプターに直接接続できます。このモデムをシリアル・ポート A (COM1) または管理ポート C (COM2) に接続すると、リモート機能を使用できます。(ご使用のサーバーのシリアル・ポート A (COM1) と管理ポート C (COM2)については、このサーバー・ライブラリーの“ハードウェア情報”の項を参照してください。Netfinity システム管理 PCI アダプターのモデムの構成設定については、15ページの『モデム設定』を参照してください。)

接続すると、種々のモニター、構成、およびエラー・ログのデータにアクセスが可能になります。また、次のこともできます。

- リモート・サーバーの電源をオンまたはオフにする
- サーバーを遮断して再始動する
- Netfinity システム管理 PCI アダプターでリモート・ビデオ・モードを開始する

リモート・ビデオ・モードにすると、POST の間に生成したすべてのテキストをリモートでモニターできます。すべての POST データは、リモート・システムが POST を完了すると「端末プログラム」ウィンドウに表示されます。リモート・システムで POST をモニターしているときには、どの場所でも入力されてもすべてリモート・システムに自動的に中継されて、POST の間にアクセスできる POST ユーティリティー (システム構成、RAID ミニ構成プログラム、および診断プログラムなど) の使用を可能にします。

---

### Netfinity システム管理 PCI アダプターへの直接接続の確立

端末プログラムを使用して Netfinity システム管理 PCI アダプターとの直接接続を確立するには:

1. 端末プログラムを使用して Netfinity システム管理 PCI アダプターのモデムとの接続を確立する。

次のモデムの設定値を使用します。

<b>Baud</b>	57.6 k
<b>Data Bits</b>	8
<b>Parity</b>	なし
<b>Stop Bits</b>	1
<b>Flow Control</b>	ハードウェア

2. Netfinity システム管理 PCI アダプターをダイヤルする。
3. Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインする。

Netfinity システム管理 PCI アダプターとの接続を確立すると、プロンプトが出てユーザー名とパスワードを要求されます。Netfinity システム管理 PCI アダプターと使用するよ

上に前もって構成設定されているユーザー名とパスワードの組み合わせを入力する必要があります。

次のユーザー名とパスワードの 2 つの組み合わせのいずれかを使用できます。

- デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD)

注: デフォルトのユーザー名とパスワードは、大文字と小文字を区別します。すべて大文字を使用する必要があり、PASSWORD の “0” は、数字のゼロです。

- Netfinity システム管理 PCI アダプターと Netfinity マネージャーを使用して定義するユーザー名とパスワード

#### 重要

セキュリティの目的で、Netfinity システム管理 PCI アダプターのユーザー名とパスワードを変更してください。詳細については、10ページの『構成の設定』を参照してください。

Netfinity システム管理 PCI アダプターのマイクロコードを更新すると、デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD) はリセットされます。前にこれらを変更したことがある場合、ユーザー名とパスワードを再度変更する必要があります。

## Netfinity システム管理 PCI アダプターのメニュー

Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインすると、次のメインメニューがオープンします。

2 Monitors  
3 Error Logs  
4 Service Processor Configuration  
5 System Services  
6 System Power  
7 Boot  
B Remote Terminal Status  
Y Disconnect Current Logon  
Z Start Remote Video

メニュー項目にアクセスするには、アクセスしたい情報に対応する番号または文字を押します。メニュー項目を選択した後で、それ以降のメニューには、メインメニューで行った選択に関する情報がより具体的に表示されます。メインメニューに戻るには、Esc キーを押します。

#### 注

- **Y Disconnect Current Logon** を選択すると、現在のセッションが終了して、続行する前に新しいユーザー名とパスワードの入力を要求されます。
- **Read** を選択すると、最後のエントリーが表示されます。
- **Read Last** を選択すると、後方に向かってエントリーを表示していきます。
- **Write** を選択すると、コマンドを実行します。

メニューの選択項目	表示可能なデータ
<b>Monitors</b>	DASD バックプレーン温度、周辺温度、マイクロプロセッサ温度、表示電圧、電圧調整モジュール表示数、ファンの状況
<b>Error Logs</b>	システム・エラー・ログの内容
<b>Service Processor Configuration</b>	Netfinity システム管理 PCI アダプターのモデム構成、ダイヤルアウト・エントリー、ダイヤルアウト・アラート、ダイヤルイン・ログイン、システム状況、しきい値、システム統計値、重要プロダクト・データ(VPD) 情報、およびシステム状態
<b>System Services</b>	ホスト・システムに送信された Netfinity システム管理 PCI アダプターのウォッチドッグ・タイマーとイベント・アラートの状況
<b>System Power</b>	現在のシステム電源状況、電源オフ構成、および電源オフ遅延の値  注: 「System Power (システム電源)」メニューから選択可能な項目を使用して、システムの電源をオンまたはオフにできます。詳細については、41ページの『「System Power (システム電源)」メニューの選択項目』を参照してください。
<b>Boot</b>	「Boot (ブート)」メニューから選択可能な項目を使用して、システムを遮断して再始動したり、Netfinity システム管理 PCI アダプターを再始動できます。詳細については、42ページの『「Boot (ブート)」メニューの選択項目』を参照してください。
<b>Remote Terminal Status</b>	現在のリモート端末の状況
<b>Start Remote Video</b>	<b>Start Remote Video</b> を使用して、ユーザーの端末プログラムが POST の間にサーバーをリモートでモニターおよび管理できます。詳細については、44ページの『リモート・ビデオ・モードを使用して POST のモニターとアクセス』を参照してください。

端末プログラムを使用して Netfinity システム管理 PCI アダプターへのアクセスが終了したら、メインメニューから **Disconnect Current Logon** を選択して、次に端末プログラムを使用して Netfinity システム管理 PCI アダプターへの接続をクローズします。

## 「System Power (システム電源)」メニューの選択項目

「System Power (システム電源)」メニューから選択可能な項目を使用して、次のことが行えます。

- 現在のサーバー電源の状況に関するデータの表示
- サーバー電源構成に関するデータの表示
- サーバーの電源をオフにする
- サーバーの電源をオンにする

これらの機能にアクセスするには、

1. 端末プログラムを使用して Netfinity システム管理 PCI アダプターのモデムとの接続を確立する。
2. Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインする。

Netfinity システム管理 PCI アダプターとの接続を確立すると、プロンプトが出てユーザー名とパスワードを要求されます。Netfinity システム管理 PCI アダプターと使用するように前に構成設定されているユーザー名とパスワードの組み合わせを入力する必要があります。次のユーザー名とパスワードの 2 つの組み合わせのいずれかを使用できます。

- デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD)

注: デフォルトのユーザー名とパスワードは、大文字と小文字を区別します。すべて大文字を使用する必要があり、PASSWORD の“0”は、数字のゼロです。

- Netfinity システム管理 PCI アダプターと Netfinity マネージャーを使用して定義したユーザー名とパスワード

重要

セキュリティの目的で、Netfinity システム管理 PCI アダプターのユーザー名とパスワードを変更してください。詳細については、10ページの『構成の設定』を参照してください。

Netfinity システム管理 PCI アダプターのマイクロコードを更新すると、デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード(PASSWORD) はリセットされます。前にこれらを変更したことがある場合、ユーザー名とパスワードを再度変更する必要があります。

Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインすると、次のメインメニューが表示されます。

2 Monitors  
3 Error Logs  
4 Service Processor Configuration  
5 System Services  
6 System Power  
7 Boot  
B Remote Terminal Status  
Y Disconnect Current Logon  
Z Start Remote Video

3. **6 System Power** を選択する。

次の「System Power (システム電源)」メニューがオープンします。

1 Current Power Status  
2 Power Configuration  
3 Power On  
4 Power Off

4. 「System Power (システム電源)」メニュー項目を選択する。

- **1 Current power Status** を選択すると、現在のサーバー電源の状況についての情報が表示されます
- **2 Power Configuration** を選択すると、サーバーの電源構成についての情報が表示されます
- **3 Power On** を選択すると、サーバーの電源をオンにします (現在オフであれば)
- **4 Power Off** を選択すると、サーバーの電源をオフにします (現在オンであれば)



## 「Boot (ブート)」メニューの選択項目

「Boot (ブート)」メニューから選択可能な項目を使用して、次のことが行えます。

- サーバーのオペレーティング・システムを遮断して、次にサーバーを再始動する
- 最初にオペレーティング・システムを遮断せずに、即時にサーバーを再始動する
- Netfinity システム管理 PCI アダプターを再始動する

これらの機能にアクセスするには、

1. 端末プログラムを使用して Netfinity システム管理 PCI アダプターのモデムとの接続を確立する。
2. Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインする。

Netfinity システム管理 PCI アダプターとの接続を確立すると、プロンプトが出てユーザー名とパスワードを要求されます。Netfinity システム管理 PCI アダプターに構成設定されているユーザー名とパスワードの組み合わせを入力する必要があります。次のユーザー名とパスワードの 2 つの組み合わせのいずれかを使用できます。

- デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD)

注: デフォルトのユーザー名とパスワードは、大文字と小文字を区別します。すべて大文字を使用する必要があり、PASSWORD の “0” は、数字のゼロです。

- Netfinity システム管理 PCI アダプターと Netfinity マネージャーを使用して定義するユーザー名とパスワード

### 重要

セキュリティの目的で、Netfinity システム管理 PCI アダプターのユーザー名とパスワードを変更してください。詳細については、10ページの『構成の設定』を参照してください。

Netfinity システム管理 PCI アダプターのマイクロコードを更新すると、デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD) はリセットされます。前にこれらを変更したことがある場合、ユーザー名とパスワードを再度変更する必要があります。

Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインすると、次のメインメニューが表示されます。

```
2 Monitors
3 Error Logs
4 Service Processor Configuration
5 System Services
6 System Power
7 Boot
B Remote Terminal Status
Y Disconnect Current Logon
Z Start Remote Video
```

3. **7 Boot** を選択する。

次の「Boot (ブート)」メニューが表示されます。

- 1 Reboot w/OS Shutdown
  - 2 Reboot immediately
  - 3 Restart SP
4. 「Boot (ブート)」メニュー項目を選択する。
- **1 Reboot w/OS Shutdown** を選択すると、サーバーのオペレーティング・システムを遮断して、次にサーバーを再始動する
  - **2 Reboot immediately** を選択すると、最初にオペレーティング・システムを遮断せずに、即時にサーバーを再始動する
  - **3 Restart SP** を選択して Netfinity システム管理 PCI アダプターを再始動する

---

## リモート・ビデオ・モードを使用して POST のモニターとアクセス

端末プログラムを使用すると、POST の間に生成したすべてのテキストをリモートでモニターできます。すべての POST データは、リモート・システムが POST を完了すると「端末プログラム」ウィンドウに表示されます。リモート・システムで POST をモニターしているときには、どの場所でも入力されてもすべてリモート・システムに自動的に中継されて、POST の間にアクセスできる POST ユーティリティ (システム構成、RAID ミニ構成プログラム、または診断プログラムなど) の使用を可能にします。

リモート・ビデオ・モードを使用してサーバー上の POST をモニターしアクセスするには、

1. 端末プログラムを使用して Netfinity システム管理 PCI アダプターのモデムとの接続を確立する。
2. Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインする。

Netfinity システム管理 PCI アダプターとの接続を確立すると、プロンプトが出てユーザー名とパスワードを要求されます。Netfinity システム管理 PCI アダプターに構成設定されているユーザー名とパスワードの組み合わせを入力する必要があります。次のユーザー名とパスワードの 2 つの組み合わせのいずれかを使用できます。

- デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD)

注: デフォルトのユーザー名とパスワードは、大文字と小文字を区別します。すべて大文字を使用する必要があり、PASSWORD の “0” は、数字のゼロです。

- Netfinity システム管理 PCI アダプターと Netfinity マネージャーを使用して定義するユーザー名とパスワード

### 重要

セキュリティの目的で、Netfinity システム管理 PCI アダプターのユーザー名とパスワードを変更してください。詳細については、10ページの『構成の設定』を参照してください。

Netfinity システム管理 PCI アダプターのマイクロコードを更新すると、デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD) はリセットされます。前にこれらを変更したことがある場合、ユーザー名とパスワードを再度変更する必要があります。

Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインすると、次のメインメニューが表示されます。

- 2 Monitors
- 3 Error Logs
- 4 Service Processor Configuration
- 5 System Services
- 6 System Power
- 7 Boot
- B Remote Terminal Status
- Y Disconnect Current Logon
- Z Start Remote Video

3. サーバーを始動する (または再始動する)

- リモート・サーバーが現在オフである場合、
    - a. メインメニューから **6 System Power** を選択します。
    - b. 「System Power (システム電源)」メニューから **4 Power On** を選択します。
  - サーバーの電源が現在オンである場合、サーバーを再始動する必要があります。  
「System Power (システム電源)」メニューまたは「Boot (ブート)」メニューから選択可能な項目を使用して、サーバーをいくつかの方法で再始動できます。  
「System Power (システム電源)」メニューの選択項目を使用してサーバーを再始動するには、
    - a. メインメニューから **6 System Power** を選択します。
    - b. 「System Power (システム電源)」メニューから **3 Power Off** を選択します。
    - c. サーバーの電源をオフにしてしまうと、**4 Power On** を選択してサーバーの電源をもう一度入れます。「Boot (ブート)」メニューの選択項目を使用してサーバーを再始動するには、
    - a. メインメニューから **7 Boot** を選択します。
    - b. **1 Reboot w/OS Shutdown** または **2 Reboot immediately** のどちらかを選択してサーバーを再始動します。
- 注: 「System Power (システム電源)」メニューおよび「Boot (ブート)」メニューについては、41ページの『「System Power (システム電源)」メニューの選択項目』と42ページの『「Boot (ブート)」メニューの選択項目』を参照してください。

4. サーバーを再始動した後、メインメニューに戻り、**Z Start Remote Video** を選択します。

Netfinity システム管理 PCI アダプターで Remote Video (リモート・ビデオ) モードを開始すると、POST の間に生成したすべてのテキストはユーザーの端末ウィンドウに送信されます。また、端末は完全にアクティブなリモート・セッションとして機能し、リモート・サーバーに送信されるキーボード・コマンドの入力を可能にします。このようにして、システム・セットアップまたは RAID ミニ構成プログラムなどの、POST オペレーションとユーティリティーにアクセスするキーボード・コマンドやキーの組み合わせを入力できます。

Remote Video (リモート・ビデオ) モードの使用を終了したら、Ctrl+R を押して、次に Ctrl+E を押してから Ctrl+T を押します。これによって、Remote Video (リモート・ビデオ) モードは終了し、メインメニューに戻ります。



---

## 付録A. ダイナミック接続マネージャー

ダイナミック接続マネージャーは、Netfinity マネージャーに含まれているシリアル接続制御サービスを更新した拡張版です。この拡張版のシリアル接続制御サービスは、システム管理オプションを導入時に選択した場合だけ、Netfinity マネージャー 5.2.1 以降とともに導入されます。システム管理オプションを、Netfinity マネージャー 5.2.1 以降の導入時に選択しない場合には、ダイナミック接続マネージャーの代わりにシリアル接続制御が導入されます。シリアル接続制御については、*Netfinity マネージャー・ユーザーズ・ガイド* のシリアル接続制御の章を参照してください。

注: システム管理オプションを、Netfinity マネージャーの導入時に選択していない場合には、Netfinity マネージャーを再導入して、システム管理オプションを選択してダイナミック接続マネージャーを使用可能にする必要があります。

シリアル接続制御と同様、ダイナミック接続マネージャーを使用すると、システムに導入されたモデムを使用して別の Netfinity マネージャー・システムにリモートでアクセスできます。正しく構成設定されると、モデムだけを使用して他の Netfinity マネージャー・システムにアクセスしたり、管理できます。これは、これらのシステムが LAN に接続した場合と同じです。ダイナミック接続マネージャーを使用して Netfinity マネージャーを実行するシステムと接続した場合には、リモート・システムのリモート・システム・マネージャーを使用して、そのシステムをパススルーしてリモート・システム・ネットワークの他のどの Netfinity マネージャー・システムでも管理できます。

また、システムが LAN に接続されていない場合、Netfinity マネージャー・ダイナミック接続マネージャー・サービスを使用すると、システム管理担当者は、オフィスに戻ったり、仕事を中断せずに、任意の Netfinity マネージャー・アプリケーションを使用してシステムの管理を行うことができます。

シリアル接続制御サービスが行う機能に加えて、ダイナミック接続マネージャーを使用して、システム管理 PCI アダプターまたはプロセッサとともに含まれている TCP/IP またはシステム管理 (ASM) インターコネクト・ネットワーク・サブシステムに直接リンクできます。このリンクを確立すると、システム管理サービスを使用してシステム管理 PCI アダプターまたはプロセッサを、導入されているサーバーがオンになっているまたは稼働しているかどうかに関係なく、直接アクセス、モニター、構成設定、および管理することができます。



図 13. ダイナミック接続マネージャー

注:

1. システムには、ダイナミック接続マネージャーのシリアル・リンク機能を使用できる少なくとも 9600 ボーをサポートするモデムを正しく導入して構成設定してある必要があります。
2. システムを TCP/IP ネットワークに接続して TCP/IP プロトコル・ドライバーを使用可能にする必要があります (導入時に使用可能にする)。現在使用可能になっていない場合には、ネットワーク・ドライバー構成を使用してこのドライバーを使用可能にしダイナミック接続マネージャーの TCP/IP リンク機能を使用できるようにします。
3. ダイナミック接続マネージャーの ASM インターコネクト・リンク機能を使用するためには、システムをシステム管理 (ASM) インターコネクト・ネットワークに接続する必要があります。

注: ダイナミック接続マネージャーを使用すると、シリアルまたは TCP/IP 接続を使用してリモートのシステム管理 PCI アダプターまたはプロセッサに接続し、次に ASM インターコネクト機能を使用して、リモート・システムの ASM インターコネクト・ネットワークの他のシステム管理 PCI アダプターまたはプロセッサを“パススルー”したり、接続できます。詳細については、56ページの『システム管理 インターコネクト・パススルー管理』を参照してください

## モデムの構成

ダイナミック接続マネージャーのシリアル・リンク機能を使用してリモート・システムにアクセスできるようにしたり、自分のシステムをリモートでアクセスできるようにするには、その前にモデムが正しく構成設定されていることを確認する必要があります。

ご使用のシステムのモデムを構成設定するには、

1. 「ダイナミック接続マネージャー」ウィンドウから **モデム設定** をクリックします。  
これによって、「モデム設定」ウィンドウ (49ページの図14) がオープンします。

2. スピン・ボタンを使用して、構成設定するモデムの COM ポート を選択します。

構成する COM ポート フィールドの横のスピン・ボタンを使用して、モデムの COM ポートを選択します。

3. モデム名 を選択するか、新しい名前をタイプします。

モデム名 フィールドからご使用のシステムのモデムを選択するか、新しい名前をタイプします。Netfinity マネージャーは、よく使われているモデム・タイプ用の設定値で事前に構成設定されています。しかし、使用しているモデムが モデム名 フィールドにリストされていない場合、またはシステムにあるモデムがどのような種類のものか分からない場合には、**Default** を選択します。**Default** の設定値を使用したときにモデムが正しく機能しない場合には、56ページの『初期設定ストリングの指針』を参照してください。

注: 事前に構成設定されたモデム名または **Default** を選択すると、他のモデム構成情報が自動的に埋められます。



図 14. 「Dynamic Connection Manager - Modem Settings」ウィンドウ

4. モデム名をタイプした場合には、システム・モデム用の正しい初期設定ストリングをタイプします。

事前に構成設定されたモデム名の 1 つを選択した場合、このフィールドはユーザーに代わって埋められます。しかし、Netfinity マネージャーにユーザーのモデム用の事前構成値が入っていない場合には、このフィールドの編集が必要となります。詳細については、56ページの『初期設定ストリングの指針』を参照してください。

5. システムのモデム用の正しいハンガアップ・ストリングをタイプします。

停止ストリング フィールドには、モデムを指示して電話線への接続をクローズするために、モデムに送信されるコマンドが入っています。このストリングは、大部分のモデムで正しく機能します。モデムがデフォルトの停止ストリングに正しく応答しない場合には、詳細についてモデムに付属の資料を参照してください。

6. 保管 をクリックするとこれらの設定値は保管され、このモデムをダイナミック接続マネージャーが使用できるようになります。

## リモート・アクセスの使用可能化

モデムをダイナミック接続マネージャーと一緒に使用するように構成設定すると、ネットワーク管理担当者や他の許可ユーザーにシステムへのアクセスを許可する必要があります。その後、許可ユーザーはダイナミック接続マネージャーを使用してシステムにアクセスできます。システムへのアクセスを許可するには、

1. 名前 選択項目リストから自動応答をクリックして、ダイナミック接続マネージャーを自動応答モードにします。
2. 安全保護マネージャー・サービスを使用して、許可ユーザーがシステムにログオンするときに入力するユーザー ID とパスワードの組み合わせを構成設定します。

ダイナミック接続マネージャー・サービスを自動応答モードに設定するには、

1. Netfinity マネージャーのダイナミック接続マネージャー・サービスを始動します。
2. ダイナミック接続マネージャーの 名前 フィールドで 自動応答 をクリックします。

自動応答を設定すると、ダイナミック接続マネージャー・サービスはモデムを介してかかってきた電話のコールに自動的に応答できます。一度電話に応答すると、このサービスは呼び出し側のシステムとのリンクを確立しようとします。

3. 接続をヌル・モデム接続を使用して確立している場合には、ヌル・モデム をクリックします。

注: リモート・システムがヌル・モデム接続を使用してこのシステムと通信する場合には、ヌル・モデム チェック・ボックスにチェックを入れる必要があります。

4. ダイナミック接続マネージャーのユーザー ID とパスワードを設定します。

安全保護マネージャー・サービスを使用して、許可ユーザーがシステムにログオンするときに入力するユーザー ID とパスワードの組み合わせを構成設定します。リモート・ユーザーがこのシステム上のモデムにダイヤルインすると、このシステムで Netfinity マネージャー・サービスへのアクセス権を得るためにはユーザー ID とパスワードの入力が必要となります。Netfinity マネージャーのユーザー ID とパスワードの組み合わせを構成設定する方法については、*Netfinity マネージャー・ユーザーズ・ガイド* (ServerGuide と一緒に含まれている) の安全保護マネージャーの章を参照してください。

5. 開始 をクリックします。

一度 開始 をクリックすると、ダイナミック接続マネージャー・サービスはかかってくるコールの待機を開始します。「ダイナミック接続マネージャー」ウィンドウの状況フィールドに“接続までお待ちください”が表示されたら、終了 をクリックできます。ダイナミック接続マネージャーは、バックグラウンドでかかってくるコールを待機し続けます。

注: Netfinity マネージャーを始動したときにかかってくるコールの待機をダイナミック接続マネージャー・サービスに自動的に開始させたい場合には、自動応答 をクリックして、次に、自動開始 チェック・ボックスをクリックします。



システムのもデムをダイナミック接続マネージャー・サービスとともに使用できるように構成設定すると、他の Netfinity マネージャー・システムにリモートでのアクセスを可能にするシリアル接続エントリーを作成できます。

## ダイナミック接続マネージャー・エントリーの作成

ダイナミック接続マネージャー・エントリーは、「ダイナミック接続マネージャー」ウィンドウの該当のフィールドに入力することによって追加されます。2 つのタイプのエントリーを作成できます。

- Netfinity マネージャー接続

ダイナミック接続マネージャーとモデムを使用して Netfinity マネージャーを実行しているリモート・システム上のダイナミック接続マネージャー・サービスまたはシリアル接続制御サービスとのシリアル接続を確立するため Netfinity マネージャー接続を作成します。この接続を確立すると、Netfinity マネージャー・サービスを使用して、リモート・システムがユーザーのネットワークに接続されている場合と同様に、リモート・システムをリモートでモニターおよび管理できます。

- システム管理プロセッサ接続

ダイナミック接続マネージャーを使用して、PC Server システム管理アダプター、Netfinity システム管理プロセッサ、またはユーザーのサーバーの 1 つに導入されている Netfinity システム管理 PCI アダプターと直接接続するため Netfinity マネージャー接続を作成します。ダイナミック接続マネージャーを使用して、リモートのシステム管理ハードウェアに直接リンクする場合、Netfinity マネージャーは、システム管理サービスを使用してシステム管理ハードウェアをモニターおよび管理するためにリモート・サーバーで実行中である必要はありません。

注: システム管理ハードウェア接続を使用すると、システム管理サービスだけを使用できます。他の Netfinity マネージャー・サービスは、リモート・システムでは使用できません。

## Netfinity マネージャー接続エントリーの作成

新しいダイナミック接続マネージャー Netfinity マネージャー接続エントリーを追加するには、

1. 名前をエントリーに割り当てます。

名前 フィールドに、個々のシステムのために作成するダイナミック接続マネージャー・エントリー用の固有な名前をタイプします。たとえば、ダイナミック接続マネージャーがアクセスできるように構成設定するシステムのシステム名をタイプします。しかし、名前エントリーは純粋に記述的なもので、なんでもかまいません。

2. リモート・システムの電話番号を入力します。

番号 フィールドに、アクセスするシステムの電話番号をタイプします。このシステムと通信するのに必要となるエリア・コードやプレフィックスがあれば必ず含めてください。たとえば、外線につなぐときに 9 をダイヤルする必要のある電話システムもあります。

注: 電話番号には括弧やハイフンを使用しないでください。

3. COM ポートを割り当てます。

リモート・システムのアクセスに使用するモデムの使用する COM ポートを選択します。

4. モデムのボー・レートを指定します。

リモート・システムのアクセスに使用するモデムの ボーレート を選択します。

注:

- a. シリアル接続が頻繁に失敗する場合には、ボー・レートを下げてください。ボー・レートを高くすると、回線ノイズに一層敏感になります。
- b. 最高のパフォーマンスを得るには、最大のモデム速度に等しいかそれより大きいボー・レートを選択します。

5. リモート・システムにログオンするためのユーザー ID を入力します。

リモート・システムにアクセスできるユーザー ID をタイプします。これは、リモート・システムのセキュリティー・マネージャーでアクセスできるように構成設定されたユーザー ID とパスワードの組み合わせに一致する必要があります。

6. リモート・システムにログオンためのパスワードを入力します。

リモート・システムにアクセスできるパスワードをタイプします。これは、リモート・システムのセキュリティー・マネージャーでアクセスできるように構成設定されたユーザー ID とパスワードの組み合わせに一致する必要があります。

7. 接続をヌル・モデム接続を使用して確立している場合には、ヌル・モデム をクリックします。

8. ダイナミック接続マネージャー・エントリーを保管します。

適用 をクリックしてこのエントリーを保管します。

## システム管理プロセッサ接続エントリーの作成

新しいダイナミック接続マネージャー・システム管理プロセッサ接続エントリーを追加するには、

1. システム管理プロセッサ チェック・ボックスをチェックします。

このチェック・ボックスをチェックすると、システム管理プロセッサ接続 ボタン・グループ選択項目が使用可能になります。

2. システム管理プロセッサ接続 タイプを選択します。

次の 3 つの接続タイプのうちのいずれかを選択できます。

- シリアル・リンク

システム管理プロセッサ接続 ボタン・グループから シリアル・リンク を選択すれば、モデムを使用して、リモートの PC Sever システム管理アダプター、Netfinity システム管理 PCI アダプター、または Netfinity システム管理プロセッサが使用できるように構成設定されているモデムと直接接続できます。

- TCP/IP リンク

システム管理プロセッサ接続 ボタン・グループから TCP/IP リンク を選択すれば、TCP/IP ネットワーク接続を使用して、ユーザーのネットワークに接続されている Netfinity システム管理 PCI アダプターに組み込まれている TCP/IP サブシステムと直接接続できます。

注: TCP/IP リンクは、Netfinity システム管理 PCI アダプターと一緒にのみ使用できます。

- インターコネクト・リンク

システム管理プロセッサ接続 ボタン・グループから インターコネクト・リンクを選択すれば、ASM インターコネクト・ネットワークで Netfinity システム管理 PCI アダプターに接続されているシステム管理アダプターまたはプロセッサにアクセスできます。ASM インターコネクト接続では、それ以外の構成は必要ありません。ASM インターコネクト機能を使用する場合、詳細については、55ページの『リモート・システムへのアクセス (システム管理インターコネクト・リンク)』を参照してください。

注: Netfinity マネージャー V5.20.5 およびそれ以降でインターコネクト機能を使用するには、「システム管理」サービスを起動後、「オプション」メニューから、「インターコネクト」→「接続」と実行します。ダイナミック接続マネージャーは使用しませんので、ご注意ください。

3. 名前をエントリーに割り当てます。

名前 フィールドに、個々のシステム管理アダプターまたはプロセッサのために作成するダイナミック接続マネージャー・エントリー用の固有な名前をタイプします。たとえば、アダプターまたはプロセッサが導入されているシステムのシステム名を使用します。しかし、名前エントリーは純粹に記述的なもので、なんでもかまいません。

4. リモート・システムのアクセス番号を入力します。

番号 フィールドに、アクセスするシステム管理アダプターまたはプロセッサの電話番号 (システム管理プロセッサ接続 ボタン・グループからシリアル・リンク を選択した場合) または TCP/IP アドレス (システム管理プロセッサ接続 ボタン・グループから TCP/IP リンク を選択した場合) をタイプします。シリアル・リンクを構成設定する場合、このアダプターまたはプロセッサと通信するのに必要となるエリア・コードやプレフィックスがあれば必ず含めてください。たとえば、外線につながるときに 9 をダイヤルする必要のある電話システムもあります。

注: 電話番号には括弧やハイフンを使用しないでください。

5. COM ポートを割り当てます。

使用する COM ポート フィールドから、システム管理アダプターまたはプロセッサにアクセスするのに使用するモデムまたはネットワーク・アダプターの COM ポートを選択します。

6. ポートのボー・レートを指定します。

シリアル・リンクを構成設定する場合、リモート・システムのアクセスに使用するモデムをボー・レートを指定します。

注:

- a. シリアル接続が頻繁に失敗する場合には、ボー・レートを下げてみてください。ボー・レートを高くすると、回線ノイズに一層敏感になります。
- b. 最高のパフォーマンスを得るには、最大のモデム速度に等しいかそれより大きいボー・レートを選択します。

7. リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサにログオンするためのユーザー ID を入力します。

リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサにアクセスできるユーザー ID を入力します。これは、システム管理アダプターまたはプロセッサにアクセスできるように、システム管理サービスを使用して、構成設定されたユーザー ID とパスワードの組み合わせに一致する必要があります。システム管理用のユーザー ID とパスワードの

組み合わせを構成設定する方法については、8ページの『シリアル、TCP/IP、または ASM インターコネクト接続を使用したリモート管理』を参照してください。

8. リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサにログオンするためのパスワードを入力します。

リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサにアクセスできるパスワードを入力します。これは、システム管理アダプターまたはプロセッサにアクセスできるように、システム管理サービスを使用して、構成設定されたユーザー ID とパスワードの組み合わせに一致する必要があります。システム管理用のユーザー ID とパスワードの組み合わせを構成設定する方法については、8ページの『シリアル、TCP/IP、または ASM インターコネクト接続を使用したリモート管理』を参照してください。

9. 接続をヌル・モデム接続を使用して確立している場合には、ヌル・モデム をクリックします。
10. ダイナミック接続マネージャー・エントリーを保管します。  
適用 をクリックしてこのエントリーを保管します。

---

## リモート・システムへのアクセス (シリアル・リンクと TCP/IP リンク)

1 つまたは複数のダイナミック接続マネージャー・エントリーを作成すると、リモート・システムにアクセスできます。

リモート・システムのアクセスは、「ダイナミック接続マネージャー」ウィンドウ (48ページの図13を参照) から行われます。リモート・システムにアクセスするには、

1. 名前 フィールドから、アクセスしたいリモート・システムのダイナミック接続マネージャー・エントリーを選択します。
2. 開始 をクリックしてシリアル接続プロセスを開始します。

ダイナミック接続マネージャー・プロセスを開始すると、システムは、モデムまたはネットワーク・アダプターのどちらかを使用してリモート・システムとコンタクトを試みます。リモート・システムとコンタクトすると、ダイナミック接続マネージャーはユーザー ID とパスワードの組み合わせを使用してリモート・システムへのアクセスを試みます。接続が正常に行われると、リモート・システム・マネージャーを使用してリモート・システムを追加 (または検出) できます。その後、リモート・システムがユーザーのネットワークに接続されている場合と同様に、リモート・システムをリモートでモニターおよび管理できます。

注:

1. システム管理プロセッサ接続を作成すると、システム管理サービスだけを使用できます。リンクが確立すると、「Netfinity サービス・マネージャー」ウィンドウのシステム管理 アイコンをダブルクリックすることによって、システム管理サービスを始動します。
2. Netfinity マネージャーとの接続を確立するには、リモート・システムには、自動応答モードで実行している自分のダイナミック接続マネージャーまたはシリアル接続制御サービスがなければなりません。リモート・システムが自動応答モードでなければ、電話のコールにリモート・システムのモデムが応答しません。
3. Netfinity マネージャーを始動したときにダイナミック接続マネージャーを自動的に開始させ、特定のリモート・システムにアクセスしたい場合には、リモート・システム・エ

ントリーを選択し、次に、自動開始 チェック・ボックスをクリックします。自動的に始動するように構成設定できるのは、1つのエントリーだけです。

## リモート・システムへのアクセス (システム管理インターコネクト・リンク)

シリアル・リンクおよび TCP/IP リンクと違って、ASM インターコネクト・リンクは、他の構成を必要とせず、ASM インターコネクト・ネットワークの他のシステム管理アダプターまたはプロセッサとの接続を試みることができます。ASM インターコネクト・リンクを確立するには、

1. システム管理プロセッサ チェック・ボックスをチェックします。

このチェック・ボックスをチェックすると、システム管理プロセッサ接続 ボタン・グループ選択項目が使用可能になります。

2. システム管理プロセッサ接続 ボタン・グループの インターコネクト・リンク をクリックします。
3. 検索 ボタンをクリックして「インターコネクトの確立」ウィンドウをオープンします。



図 15. 「ダイナミック接続マネージャー - インターコネクトの確立」ウィンドウ

「インターコネクトの確立」ウィンドウは、ASM インターコネクト・ネットワークに接続されていて、このネットワークを介してアクセス可能なすべてのシステム管理アダプターまたはプロセッサのリストを表示します。

4. 「インターコネクトの確立」ウィンドウに表示されたリストから、システム管理アダプターまたはプロセッサを選択します。
5. リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサにログオンためのユーザー ID を入力します。

リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサにアクセスできるユーザー ID を入力します。これは、システム管理アダプターまたはプロセッサにアクセスできるように、システム管理サービスを使用して、構成設定されたユーザー ID とパスワードの組み合わせに一致する必要があります。システム管理用のユーザー ID とパスワードの組み合わせを構成設定する方法については、8ページの『シリアル、TCP/IP、または ASM インターコネクト接続を使用したリモート管理』を参照してください。

6. リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサにログオンためのパスワードを入力します。

リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサにアクセスできるパスワードを入力します。これは、システム管理アダプターまたはプロセッサにアクセスできるように、システム管理サービスを使用して、構成設定されたユーザー ID とパスワードの組み合わせに一致する必要があります。システム管理用のユーザー ID とパスワードの組み合わせを構成設定する方法については、8ページの『シリアル、TCP/IP、または ASM インターコネクト接続を使用したリモート管理』を参照してください。

7. ログイン をクリックすると、選択したシステム管理アダプターまたはプロセッサとの ASM インターコネクト・リンクを確立できます。

注: Netfinity マネージャー V5.20.5 およびそれ以降でインターコネクト機能を使用するには、「システム管理」サービスを起動後、「オプション」メニューから、「インターコネクト」→「接続」と実行します。ダイナミック接続マネージャーは使用しませんので、ご注意ください。

## システム管理インターコネクト・パススルー管理

ダイナミック接続マネージャーを使用して、自分のシステムおよび Netfinity システム管理 PCI アダプターが、管理したいシステムと同じ ASM インターコネクトに接続されていない場合でも、ASM インターコネクト・ネットワークに接続されているシステム管理アダプターまたはプロセッサを管理できます。パススルーの ASM インターコネクト・リンクを確立するには、

1. リモートの ASM インターコネクト・ネットワークに接続されている Netfinity システム管理 PCI アダプターとのシリアルまたは TCP/IP リンクを構成設定し確立します。

シリアルまたは TCP/IP リンクを構成設定し確立する方法については、52ページの『システム管理プロセッサ接続エントリーの作成』と54ページの『リモート・システムへのアクセス (シリアル・リンクと TCP/IP リンク)』を参照してください。

2. シリアル接続または TCP/IP リンクを確立した後、システム管理プロセッサ接続 ボタン・グループのインターコネクト・リンク をクリックし、次に 検索 をクリックします。「インターコネクトの確立」ウィンドウがオープンし、ASM インターコネクト・ネットワークおよびシリアルまたは TCP/IP リンクを使用して接続したリモートの Netfinity システム管理 PCI アダプターに接続されているシステム管理アダプターまたはプロセッサのリストを表示します。システムが ASM インターコネクト・ネットワークで自分のシステムに接続されている場合に行うように、これらのシステムのどれかを選択してログインします。

---

## 初期設定ストリングの指針

大部分のモデムは類似の初期設定ストリングを使用しますが、モデムごとに違いがあります。したがって、すべてのモデムに該当する初期設定ストリングを提供するのは非常に困難です。場合によっては、自分のモデム用に独自の初期設定ストリングを作成する必要があります。その場合には、モデムに付属した資料で該当の初期設定ストリング・コードを調べてください。

- 必須の初期設定コード

モデムが Netfinity マネージャーのダイナミック接続マネージャー・サービスと正しく動作するために、初期設定ストリングはモデムを次のように構成設定する必要があります。

- コマンド・エコーの OFF
- オンライン文字エコーの OFF
- 結果コード ENABLED
- パーバル結果コード ENABLED
- BUSY および DT 検出に関するすべてのコードと接続メッセージ
- プロトコル ID の追加 - LAPM/MNP/NONE V42bis/MNP5
- 通常の CD 操作
- DTR ON-OFF ハングアップ、AA を使用不能化、およびコマンド・モードへの復帰
- CTS ハードウェア・フロー制御
- コンピューターへの受信データの RTS 制御
- 待機非破壊中断、非エスケープ状態
- 自動応答オフ

例: 正しい作動に必要な設定だけを使用した U.S. Robotics Sportster モデムの初期設定ストリングは、次のようになります。

```
E0F1Q0V1X4&A3&C1&D2&H1&R2&Y3S0=0
```

- その他の初期設定コード

必須の初期設定コードに加えて、次の追加の設定をモデムに構成設定することによって、Netfinity マネージャーのダイナミック接続マネージャー・サービスのオペレーションを最適化できます。

- キャリアの検出までスピーカー ON
- ソフトウェア・フロー制御の使用不能化
- 自動エラー制御
- 可変データ・レート

例: 必須および追加の設定を使用した U.S. Robotics Sportster モデムの初期設定ストリングは、次のようになります。

```
E0F1M1Q0V1X4&A3&C1&D2&H1&I0&K1&M4&N0&R2&Y3S0=0
```





## 付録B. システム管理インターコネクト・ネットワークのセットアップと使用

この付録には、システムの構成設定方法とシステム管理 (ASM) インターコネクト・ネットワーク内の機能にシステムを接続する方法についての情報が記載されています。ASM インターコネクト・ネットワークは、12 個までの個々の ASM 接続を単一のバスに含めることができます。システムを接続すると、システムは ASM インターコネクト・ネットワークを使用してシステム管理の情報と資源を共有します。システム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターを ASM インターコネクト・ネットワークに接続することによって、次のことが行えます。

- 12 個までのサーバーのシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターを単一の ASM インターコネクト・バスに接続できます。
- 通信ハードウェアまたはネットワーク・インターフェース・アダプターをさらに追加する必要なしに、複数システム間でシステム管理資源、情報、およびアラートを共有できます。
- 自分の ASM インターコネクト・バスに接続されているシステム管理 PCI アダプターを自分の ASM インターコネクト・バス用のイーサネットまたはトークンリング・ゲートウェイとして使用すると、ASM インターコネクト・バスに接続されたサーバーが生成したすべてのシステム管理情報を自分のイーサネットまたはトークンリング・ネットワーク上の他のシステムに送信できます。

注: システム管理 PCI アダプターをトークンリング・ネットワークに接続するには、IBM Netfinity システム管理トークンリング・オプション (PN 36L9654) を購入して導入する必要があります。このオプションの購入については、IBM 特約店または IBM 営業担当員にお問い合わせください。

他のシステムを ASM インターコネクト・ネットワーク・バスに接続するには、システム管理インターコネクト・ケーブル・オプション (PN 03K9309) が必要となります。このオプションの購入については、IBM 特約店または IBM 営業担当員にお問い合わせください。

ASM インターコネクト・ネットワーク・バスに接続するそれぞれのシステムにシステム管理インターコネクト・ケーブル・オプションを導入すると、標準のイーサネット・ケーブルを使用してこれらのシステムを一緒に接続する必要があります。システムを接続するとき、次のセットアップと構成上の考慮事項に注意してください。

- ASM インターコネクト・ネットワークは、リングとしてではなく、バスとしてセットアップする必要があります。サーバーは ASM インターコネクト・ネットワークに始点と終点を連続して接続されていることを確認します。
- ASM インターコネクト・ネットワークでシステムを接続しているすべてのイーサネット・ケーブルの合計の長さは、約 91 メートル (300 フィート) を超えてはいけません。
- ASM インターコネクト・ネットワーク・バスに接続されているシステム管理 PCI アダプターまたはシステム管理プロセッサのそれぞれは、1 接続として数えられます。たとえば、システム管理プロセッサのあるシステムにシステム管理 PCI アダプターを導入すると、プロセッサとアダプターは、ASM インターコネクト接続を使用して相互に接続され、それぞれが ASM インターコネクト・ネットワーク・バス上で 1 接続として数えられます。

---

## システム管理インターコネクト・アラート送信

ASM インターコネクト・ネットワークに接続されたシステム管理プロセッサとシステム管理 PCIアダプターは、資源とシステム管理情報を共有します。この項では、ASM インターコネクト・ネットワークでアラートの共有と送信がどのように行われるかについて説明します。

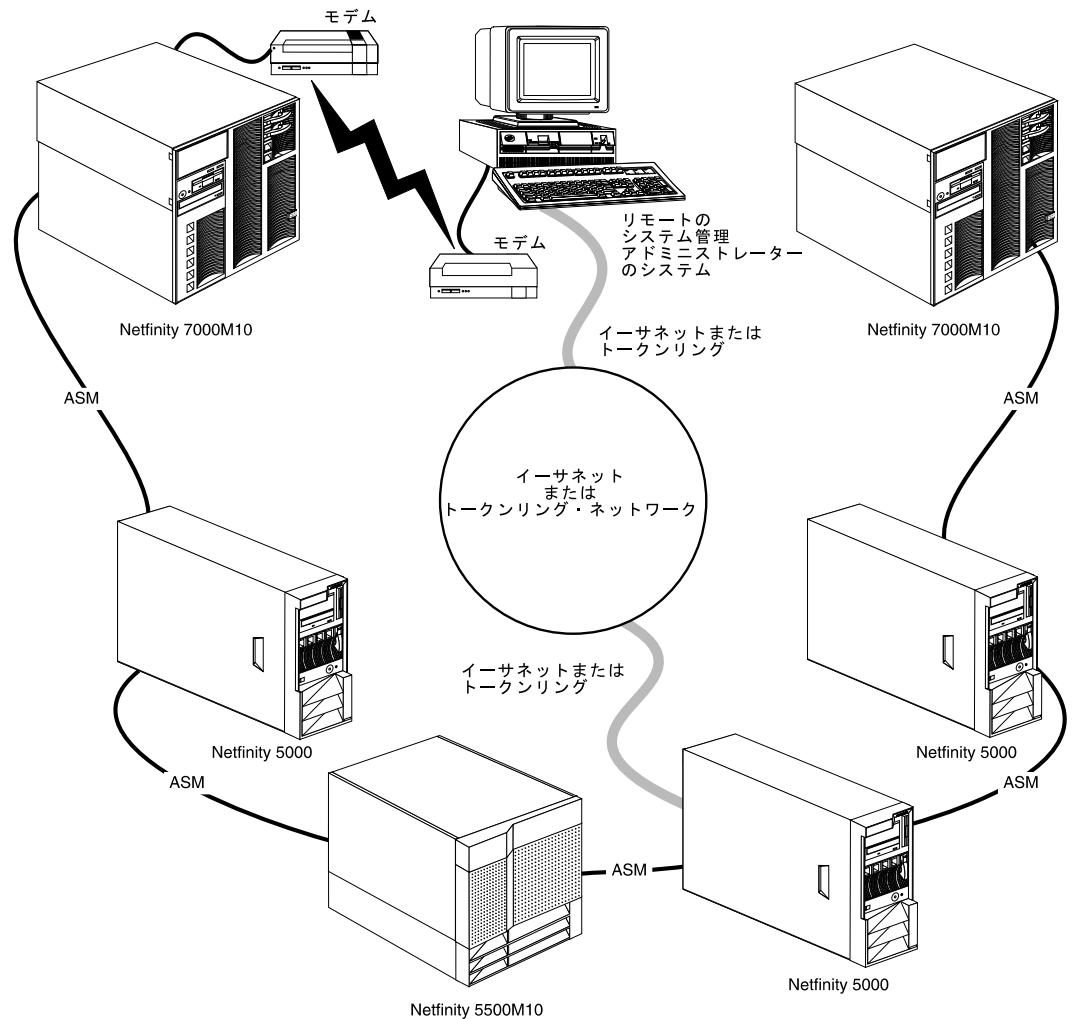
通常のオペレーション時には、ASM インターコネクト・ネットワークのシステム管理プロセッサまたはシステム管理 PCI アダプターのそれぞれは、ネットワークの他のプロセッサやアダプターと通信します。モデム、イーサネット、またはトークンリング接続をもつプロセッサまたはアダプターは、ASM インターコネクト・ネットワーク上の他のシステムが使用できる通信資源があることを他のプロセッサとアダプターに“知らせます”。これらの通信資源は、ASM インターコネクト・ネットワーク資源として使用でき、ASM インターコネクト・ネットワーク上のシステム管理プロセッサまたはシステム管理 PCIアダプターは、モデムまたはネットワークの接続が物理的に接続されていない場合でも、モデムまたは IP アドレスにアラートを送信できます。

アラートを生成すると、アラートは、アラートを送信するのに必要な通信資源をもつ ASM インターコネクト・ネットワーク上のシステム管理プロセッサまたはシステム管理 PCI アダプターに送信されます。ASM インターコネクト・ネットワーク上に要件を満たすシステムがない場合には、アラートは送信されずに、廃棄されます。

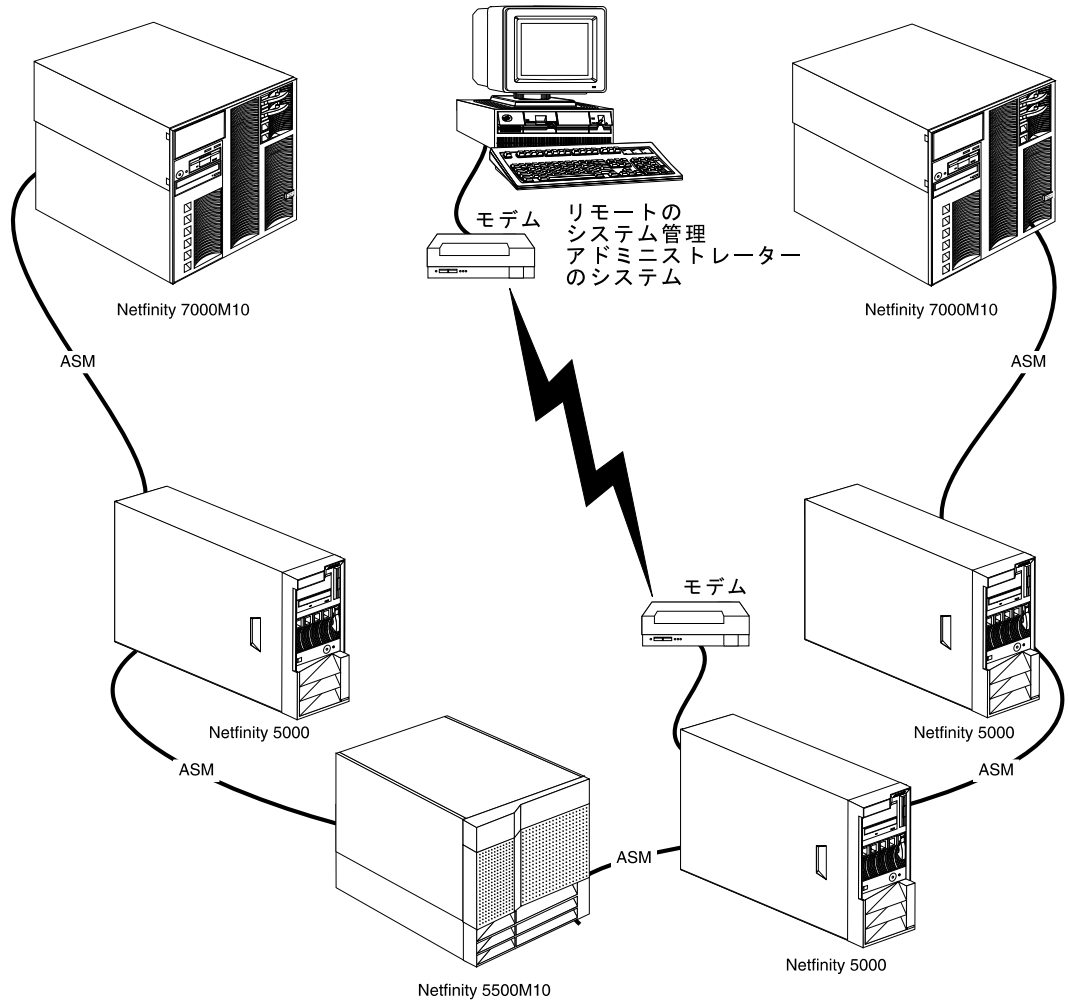
ASM インターコネクト・ネットワークに複数のモデムまたは複数のネットワーク接続が存在する場合、アラートを受信するシステムの指定またはそのモデムまたはネットワーク接続を使用してアラートを送信するシステムを指定できません。アラートが、アラートを送信できない別のシステム管理プロセッサまたはシステム管理 PCIアダプターに送信された場合（たとえば、使用するよう構成設定されたモデムが失敗したかネットワークが宛先の IP アドレスを変換できない）、プロセッサまたはアダプターは、必要に応じてアラートの送信に必要な資源をもつ ASM インターコネクト・ネットワーク上の別のシステムにアラートを送信しようとします。必要な資源をもつ別のシステムが使用できない、または引き続きアラートを送信できない場合には、アラートは廃棄されます。

## システム管理インターコネクト構成の例

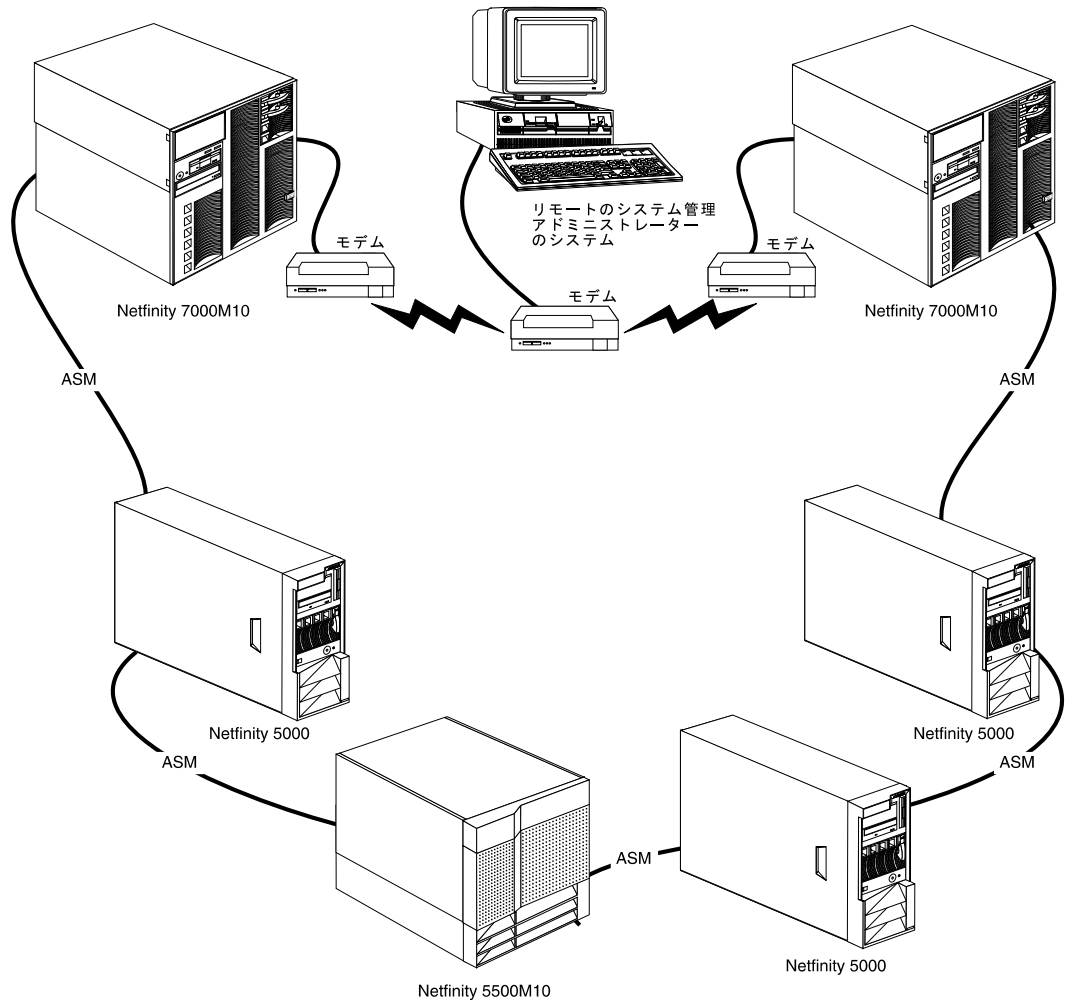
次の図は、使用できる ASM インターコネクト・ネットワーク構成の例を示します。この例では、モデムが Netfinity 7000 M10 とともに含まれているシステム管理 PCI アダプターに接続されていて、システム管理 PCI アダプターが Netfinity 5000 に導入されています。この場合には、システム管理 PCI アダプターをもつ Netfinity 5000 はネットワーク・ゲートウェイとして機能し、ASM インターコネクト・ネットワーク・バスの他のシステムが生成したシステム管理データを、ネットワークに接続されたシステム管理アドミニストレーターのシステムに送信します。Netfinity 7000 M10 は、モデムを使用してシステム管理データを管理担当者にも送るように構成設定されていて、ネットワークの障害の発生に備えて重複させています。



この例では、モデムが Netfinity 5000 にあるシステム管理プロセッサに接続されています。この場合には、この場合には、Netfinity 5000 がモデムを使用して、ASM インターコネクト・ネットワーク・バスなどの他のシステムが生成したシステム管理データをリモートのシステム管理アドミニストレーターに送信します。



この例では、モデムは、ASM インターコネクト・ネットワーク・バスの各終点の Netfinity 7000 M10 サーバーに含まれているシステム管理 PCI アダプターに接続されています。ASM インターコネクト・ネットワーク・バスの反対側の終点にモデムを置くことによって、バスの ASM インターコネクト接続に障害が発生しても、すべてのシステムは引き続きモデムにアクセスできるためシステム管理データをリモート・システムのアドミニストレーターに送ります。





## 付録C. Netfinity サーバー・フロント・パネル・アラート・コード

Netfinity システム管理 PCI アダプターは特定のシステム状態を検出した場合、エラー・コードと対応するエラー・メッセージを Netfinity サーバーに送信します。次にこの情報は、Netfinity サーバーのフロント・パネルに表示されます。次のテーブルでは、これらのエラー・コードと対応するエラー・メッセージを定義し、エラーの簡単な説明をします。

エラー番号	エラー・メッセージ	説明
10	BOOT FAIL	ASM PCI アダプターがオペレーティング・システムの始動時の障害を検出しました。
18	OS HANG	ASM PCI アダプターは、オペレーティング・システムが応答を停止したことを検出しました。
20	LOG FULL	ASM PCI アダプターのエラー・ログがいっぱいです。
80	OVER TEMP	ASM PCI アダプターは、クリティカルまたは非クリティカルの温度イベントを検出しました。
85	OVER VOLT	ASM PCI アダプターは、クリティカルまたは非クリティカルの電圧超過イベントを検出しました。
86	UNDER VOLT	ASM PCI アダプターは、クリティカルまたは非クリティカルの電圧降下イベントを検出しました。
90	SUPPLY <i>x</i>	ASM PCI アダプターは、冗長電源機構に障害を検出しました。 <i>x</i> は、電源機構の番号を示します。
98	POWER FAIL	ASM PCI アダプターは、電源サブシステムに障害が発生したことを検出しました。
A0	FAN <i>x</i> FAIL	ASM PCI アダプターは、冷却ファンに障害が発生したことを検出しました。 <i>x</i> は、ファンの番号を示します。
B0	INTRUSION	ASM PCI アダプターは、Netfinity サーバー・キャビネットの侵入スイッチが入ったことを検出しました。
70	VRM FAIL	ASM PCI アダプターは、VRM に障害が発生したことを検出しました。障害の詳細については、システム・イベント・ログを調べて、次にこの VRM またはこの VRM が入っている回路カードを取り替えてください。
99	NONREDUNDANT	ASM PCI アダプターは、電源サブシステムの負荷が大きいため電源サブシステムは冗長性なしで稼働していることを検出しました。この場合は、電源機構の 1 つに障害が発生した場合には、残っている電源機構がシステムに電源を安定して供給できなくなります。できれば、電源機構を追加するか、電源サブシステムの負荷を減らしてください。
NO ERROR CODE NUMBER	DEVICE NOT INST	ASM PCI アダプターは、必須のアダプターまたはケーブルが導入されていないことを検出しました。導入されていない装置に関する詳細については、システム・イベント・ログを調べて、次に指定の装置を導入してください。





## 付録D. 索引

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

### 〔ア行〕

アラートの送信 25

### 〔カ行〕

管理ポート C 16, 19

管理ポート C (COM2) 39

構成 6

構成、SNMP の設定値 25

構成情報 7, 9, 41

構成設定機能 15

### 〔サ行〕

作成、リモート・アラート・エントリーの 23

指針、初期設定ストリング 19

システム管理 PCI アダプターで使用可能なポート 18

システム管理プロセッサおよび PCI アダプターで使用可能なポート 18

システム管理プロセッサで使用可能なポート 17

システム状況情報 41

システム情報の表示 41

システムの再始動 43

システム・サービス 41

自動ダイヤルアウト機能の構成設定 22

重要プロダクト・データ (VPD) 41

障害予知機能 (PFA) 25

初期設定ストリングの指針 19, 56

シリアル管理 50, 51, 54

シリアル接続の使用 8

シリアル・ポート A 16, 19

シリアル・ポート A (COM1) 39

### 〔タ行〕

ダイナミック接続マネージャー

初期設定ストリングの指針 56

シリアル接続制御エントリー、の作成 51, 52

説明 47

モデムの構成 48

ダイナミック接続マネージャー (続き)

リモート・アクセスの使用可能化 50

リモート・アクセスのための 51, 54, 55

リモート・システムへのアクセス 51

リモート・システムへのアクセス (シリアル・リンクと TCP/IP リンク) 54

リモート・システムへのアクセス (ASM インターコネクト・リンク) 55

端末プログラム 39

ディスク、デバイスドライバー 2

デフォルトのユーザー名とパスワード 40

電圧調整モジュール (VRM) 24, 28

電圧の要件 24

電圧要件 28

### 〔ナ行〕

名前、デバイス・ドライバー 1

ネットワーク設定値の構成 20

ネットワークの設定 6

ネットワーク・ゲートウェイとしてのアダプターの使用 6

### 〔ハ行〕

パススルー管理 56

必須のデバイス・ドライバー 1

ビデオ・モード、リモート 39, 41, 44

ファイル、デバイス・ドライバー 1

フィーチャー 5

複数ダイヤルアウト 22

ポート参照 17

ポート通信速度 9

ポートの選択 17

### 〔マ行〕

メインメニュー 40

メインメニューに戻る 40

モデム 39

モデムの構成 48

モニター対象の電圧 24

## 〔ヤ行〕

ユーザー名 39, 40

## 〔ラ行〕

リモート Netfinity システム管理 PCI アダプターの管理 8

リモート Netfinity システム管理 PCI アダプターへの ASM インターコネクト接続 8

リモート Netfinity システム管理 PCI アダプターへの TCP/IP 接続 8

リモート Netfinity システム管理 PCI アダプターへのシリアル接続 8

リモート機能 39

リモート端末の状況 41

リモート・ビデオ・モード 39, 41, 44

## A

ASM インターコネクト接続の使用 8

AUTOEXEC.NCF ファイル、更新 3

## B

Boot メニュー 44

## C

Cancel ボタン 15

CONFIG.SYS ファイル、更新 3

Critical Enabled Alerts グループ 24

## D

Dialing Settings グループ 18

Dial-In Settings グループ 11

## E

Enabled Alerts グループ 23

## L

loader timeout 14

## N

Netfinity システム管理 PCI アダプターのセッションとの接続の切断 41

Netfinity システム管理 PCI アダプターへの接続 39

Netfinity システム管理 PCI アダプターへのログイン 39

「Network Settings」ウィンドウ 20

Non-critical Enabled Alerts グループ 24

Novell NetWare デバイスドライバーの導入 2

Novell NetWare デバイスドライバー名 1

## O

OS/2 デバイスドライバーの導入 2

OS/2 デバイスドライバー名 1

O/S timeout 14

## P

Port Configuration グループ 16

power off delay 15

## R

Refresh ボタン 15

Remote Alert Entry Information グループ 23

Remote Alert Settings 21

Reset ボタン 15

## S

「SNMP Settings」ウィンドウ 25

System Enabled Alerts グループ 25

System Identification グループ 10

System Management Processor Clock グループ 13

「System Operational Parameters」ウィンドウ 28

「System Power」メニュー 41

## T

TCP/IP 接続の使用 8

timeout、loader 14

timeout、O/S 14

timeout、post 13

## W

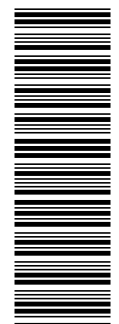
Windows NT デバイスドライバーの導入 2

Windows NT デバイスドライバー名 1



部品番号: 46L3515

Printed in Japan



46L3515

日本アイビーエム株式会社  
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12



SA88-6892-00